平成３０年６月１２日（３）

開議　　１０時００分

○議長　磯永優二君

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は、１３名であります。

それでは、これより本日の会議を開きます。

日程第１　一般質問２日目を行います。

順次、質問を許可します。

まず、初めに平成豊明会の一般質問を行います。

内丸伸一議員。

○２番　内丸伸一君

皆さん、おはようございます。平成豊明会一番手、内丸伸一が市政実行、真心を込めて質問いたしますので、真摯な御回答を、よろしくお願いいたします。

まずは業務委託について、お聞きします。一般的に業務委託とは、企業に雇用されるのではなく、企業と対等な立場で、仕事単位で契約を結ぶ働き方のこと。契約形態には、主に委任契約と請負契約などの種類があり、委任契約は、成果や結果に関わらず一定期間に実際に遂行した業務に対して報酬が支払われ、請負契約は、役割を完了させることが任務となっております。納品物や成果物に対して、報酬が支払われます。

昨今では、企業の人件費削減の流れを受け、働き方の多様化を背景に業務委託が増加しています。豊前市においても、専門性の高い業務や経費節減のために、数多くの業務を様々な所へ委託しているみたいですが、その中で幾つか疑問に感じたところなどを質問したいと思います。

現在、豊前市で業務委託している件数、及び金額は幾らですか、と聞いても直ぐに答えられないほど、業務委託は各課・各係、多岐にわたっており、多額の資金を充てております。豊前市民のために、必要な業務を少しでも経費節減するための施策だと思っておりますが、このような多くの業務委託の管理は、どのように行っていますか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

お答えいたします。市民福祉部の中で、特に健康長寿推進課、それから福祉課の委託が多いものですから、その辺を中心に御答弁させていただきます。

平成２８年度ベースで申しますと、健康長寿推進課に関しては、委託事業が５０件で、１億１８４０万８３７８円となっております。福祉課に関しては、１４件で３８０９万８３１１円となっております。

管理はどのようにされているのかという御質問でありましたが、基本的にはその年度が

終了しましてから、実績報告書と収支決算書を出していただきます。そしてそれによってチェックをするというかたちになっております。ただ、事業によっては、毎月報告書を提出していただいているものもあるということであります。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

他の部のほうはどういうふうになっていますか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。市では先ほど議員さん申しましたように、各種事業、施設の管理、システムの保守等、様々な業務委託をしております。議員から事前に４課について、お尋ねがございましたので、その資料については、既に提出しているところでございますので、そのほうで御覧いただければと思っております。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

教育部のほうはどういうふうになっていますか。

○議長　磯永優二君

教育部長。

○教育部長　栗燒憲児君

教育部では、主なものといたしましては、給食調理に関わる業務等の委託がございます。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

事前に資料を貰っておりますが、利用者の多い少ないではなく、この業務は絶対に必要であるというケースもたくさんあると思います。大半の業務は、経費に対して利用者数や利用者の満足度など、いわゆる費用対効果が求められる事業だと考えますが、そのことに対して検証は行っていますか。また行っているなら、どのような検証を行っているのでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

先ほどの管理はどのようにされているか、という質問とも重複する部分もありますが、

次年度の予算編成をする際に、先ほど申し上げました実績報告書、また収支決算書、そういったものを精査しながら予算措置をする、という流れになっております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

先ほどから、業務委託のことは、福祉課・健康長寿推進課が特に多くて、妊産婦、乳幼児、障害者、年配者など社会的弱者を支援する事業が大半を占めているみたいですが、そういった事業だからこそ、利用者の声を聞き、事業に生かしていくことが大事だと思いますが、ちゃんとそういう声を生かして次年度につなげていけるのでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

お答えいたします。一部の事業で、特に健康教室などではアンケート調査を行っておりますが、その他の事業については、各実施主体から話しを聞く程度で終わっております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

例えばですね、社会福祉協議会に委託しています自立支援相談事業ですけど、国・県からの補助金の有無、相談員の人数、年間の相談人数、相談件数、委託料を教えてください。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

確認をさせてください。生活困窮者相談支援事業のことでしょうか。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

詳しく言えばそれです。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

お答えいたします。この事業は平成２７年に施行されました、生活困窮者自立支援法に基づいて、生活保護に至る前の段階の自立支援の強化を図る、という目的で行われている事業でありまして、平成２８年度ベースで申しますと、相談件数が延べ１５５件、事業費が約７４３万円となっております。

そしてこの事業は、国の補助事業でありまして、国の補助率が４分の３となっております。なお、この事業は生活保護に関する国の必須事業となっておりますので、市としても取り組んでいるところであります。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

７４３万円に対して、１５５件ですかね。ということで、１件あたり、ざっとみても７万円弱かかっております。これだけ見ますと、国・県からの補助事業でもあり、必要な事業だとは思いますが、実際にたいしてこの委託料というのは、あってないように思います。

また事業には、人件費だけではなく諸経費もかかり、一概には言えませんが、見直す必要がある事業だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

議員が言われますように、確かに１件あたりの単価に計算しますと、５万円ほどになりますので、この単価が適正なのかどうか、今後しっかりと見極めていきたいというふうに思います。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

たくさんの仕事を抱え、余分な時間などないかもしれませんが、業務委託をしているものをしっかり検証し、出すところは出す、締めるところは締める。そうすることにより、実情にあった事業を適正な委託料で委託することができ、さらなる経費削減ができると思いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

お答えいたします。福祉や介護、健康といった事業は、かたちとしては中々見えにくい性質の事業でありますので、それだけになおのこと事業の成果や課題について検証をしっかりと行い、次回以降に生かすという、いわゆるＰＤＣＡサイクルが欠かせないということを、今回改めて認識させていただきましたので、今後、各関係課長ともそうした視点から、常にそうした意識を共有しておきたいと思います。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

ぜひとも、豊前市全体で取り組んで、そういったことを共有していただいて、経費節減に努力していただきたいと思いますが、仮に皆さんの努力で経費節減ができても、違ったところで無駄遣いをやれば、皆さん方の努力が水の泡となりますので、そういったところもしっかり管理していただきたいと思いますが、市長の見解をお願いします。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

おはようございます。貴重な市民の皆さんから預かった、また国から県から援助を受けて、補助を受けてやっている事業。厳しい財政の中でどれだけ市民サービスを充実させていくのか、大きな使命でございます。

そんな中で、業務委託という民間の皆さんの力を借りながら、サービスを充実させていく。これは私たちにとって、いま目の前に、日常にある業務となっておりまして、うまく動かしていくことが肝要だと思います。貴重な財源を有意義に生かす。庁舎内で、市役所だけで見直すだけでなく、周りの市町村の類似団体の動きなど参考になるところも取り入れて、より充実したいいサービスを求めていきたい、目ざしていきたいと思っているところでございます。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

これにつきましては、皆さんの努力をしてもらうことをお祈りいたしまして、次の質問に移りたいと思います。

防災について、質問したいと思います。防災につきましては、市報の５月・６月号におきまして、注意喚起を呼びかける文章が掲載されておりましたが、今後も継続的に掲載をお願いしたいと思います。市報に掲載されていたことや、きのうの質問と被ることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

まず、急傾斜地についてお聞きします。豊前市における急傾斜地に関しましては、３月議会で福井議員が詳しく質問しておりますが、その後、４月１１日に中津市耶馬渓で発生いたしました大規模な崩落事故は、衝撃的な事故として、皆さんの記憶にもまだ新しく残っていることと思います。その崩落事故を受け、豊前市で何か行ったのか、お答えください。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

おはようございます。それでは、耶馬渓の土砂災害を受けて、市の対応について御説明させていただきます。

本年４月に発生しました中津市耶馬渓町での土砂災害発生の情報を受けまして、災害発生当日、総務課・建設課の職員で地域を分担いたしまして、警戒区域を回り、落石や地滑り等がないか目視による確認を行ったところでございます。

また、市民の方への周知といたしまして、警戒区域を有する角田、山田、合河、岩屋、横武地区については、各区長会議に出席させていただきまして、土砂災害への注意喚起や災害の前兆現象などの説明を行っております。説明の際には、防災マップを活用いたしまして、まず自分自身がどういう地域に住んでいるのか、どのような災害の危険があるのかを改めて再認識していただくよう、お願いしております。

また区長においては、地域の方々が集まった際、防災について話題を取り上げていただき、地域の住民の方々に防災マップの活用と危険箇所の確認や周知をお願いし、地域全体で共通認識していただくとともに、土砂災害の前兆と言われます、山から小石が落ちてくる、山鳴りがする、山腹から水が噴き出す、などの現象が発生した場合は、すぐに避難を心掛けていただくよう、説明とお願いをさせていただいたところです。

また、先ほど御紹介がありましたが、広報ぶぜん５月号では、災害の種類、土砂災害の前兆、早めの避難行動について記載し、併せて市ホームページへも掲載し、周知を図ったところでございます。

今後、出水期、台風シーズンを迎えるにあたりまして、市民の皆様へ引き続き啓発を行っていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

京築消防本部でも、今回の事故を受け点検を行う、という話しがありましたけれども、何を行ったかとかは把握しているでしょうか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

豊前市消防署の本部のほうに照会いたしましたところ、市内の土砂災害警戒区域について、豊前市防災マップをもとに７月下旬より、随時、危険箇所等を目視などによる監視を行っていただいているということで、現在も継続的に活動をいただいているということでございました。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

福岡県は、４月８日に耶馬渓町での大規模な土砂災害を受けて、県内の危険箇所を緊急点検した結果、大規模災害の原因となるような広範囲の斜面の崩壊やその予兆が確認されなかったことを発表しましたが、この発表で安心することなく、いざというときのために市民の生命・財産をしっかりと守ることのできる対策を立て、実行することが必要と考えます。最低でも定期的に点検すること、何かあれば地域住民に素早く連絡・注意等を促すことは、実行していただきたいと思います。

続きまして、大雨災害について質問します。

最近では、いつ・どこで・どのような災害が発生するか分かりません。特に、地震や大雨は予測も難しく、甚大な被害を各地にもたらしております。豊前市は、よその地区に比べると地震には強いところだと感じておりますが、大雨に関しては、いつ被害に遭ってもおかしくないのではと思っております。

豊前市では、防災対策の一つとして先ほども申しておりましたが、防災マップを作成して市内各戸に配布を行い、市のホームページにも掲載しております。

その中の洪水・土砂災害ハザードマップでは、宇島・千束・黒土・三毛門校区の広い範囲を浸水想定区域に指定しております。浸水などの被害が付近の小中学校の登下校と重なるようなことがあったときに、小中学校では対応策を策定していますか。また、している場合、どのような対応を取るのか教えていただきたいと思います。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

御質問の分につきましては、各学校では安全確保・危機管理のマニュアルを策定してございまして、それに従って対応するということになります。それで御質問の下校時等にそういう浸水被害等が予想される場合につきましては、まず、各学校で通学区域内の通学路の確認を行います。

それで危険が予想される場合は、集団下校というかたちを取りまして、それに教師が一緒に随行するということ、それと、さらに雨量等が多くて帰るのが危険だというような場合には、学校に待機をさせ、また必要な保護者については連絡をいたしまして、学校に迎えに来ていただく、そういう対応を取ってございます。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

大切な豊前市の宝でもあります、子どもたちが増水した排水溝に足を取られ、流されて命を落とすということのないよう、しっかりした対策を立てて対応していただきたいと思

いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

その対応につきましては、現在、豊前市通学路安全確認推進会議という組織がございます。これは通学路の安全確保のために、通学路交通安全プログラムという方針がございまして、それに従いまして会議を行うわけでございますけれども、構成メンバーといたしましては学校、それから道路管理者であります国土交通省、それから県土整備事務所、さらに市の建設課、そして豊前警察署、加えて市教委の担当者というような構成をしてございます。

それで毎年、各学校から通学路に対して危険箇所について報告をあげていただきます。その報告に従いまして、会議で検討いたしまして、さらに必要なとこにつきましては、会議の後、メンバーで現地を確認する。その上で必要な対策についてお願いをしている、ということをしております。

したがいまして、毎年そういう通学路の中での危険箇所につきましては、把握をいたしまして対応していくというような仕組みをつくっております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

引き続き、対応をよろしくお願いいたします。

豊前市内で大雨や高潮のときに氾濫のおそれのある川や場所など、把握しているのであれば、教えていただきたいと思います。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。過去の水害の例から見ますと、能徳入口のアンダーパス、松江裏漁港等も高潮時に水害が発生しております。また明神地区、神事場横の城根川、警察官舎裏の鈴子川、前川付近の中川、あと宇島の神明地区などが、過去にそういう被害を受けている、そういう状況でございます。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

いま言っていただきました氾濫の恐れのある川や場所について、何か対策はとっておりますか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

おはようございます。産業建設部の対応といたしまして、氾濫等予想される河川等につきましては、下流の河川や水路の浚渫や維持管理等を行い、水位が早く下がるような措置を行うとともに、気象予報の情報収集にも努め、降雨前に事前の見回りで河川・水路の水門や堰板等の調整を行う。また農家さんにお願いをするといったような措置や、事前に異物やごみ等を除去するような対応をしているところでございます。

また、場所によっては事前に土のう等を設置させていただいたり、排水用のポンプ等を点検・設置等をさせていただいているところでございます。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

私は、豊前市消防団の消防団員として台風や大雨のときには、警戒のため出動し、担当地区内の見回りを行ってきました。そのときに、幾度となく川が氾濫している現場を見てきましたが、その中でも先ほど言われておりました、鈴子川。その川は途中、蛇行しており、平素より蛇行しているところに土砂が堆積し、護岸の高さほどの葦が生い茂り、川の流れも見えないような酷い所もあります。そこは激しい雨が降るとすぐに増水し、いつ氾濫してもおかしくないようなことが多々あります。

周辺には、民家は多くはありませんが、田んぼや畑があり、川が氾濫したときには増水した水が田んぼや畑に流れ込み、作物を駄目にし、田んぼも畑もごみだらけになり農家の方に二重のショックを与えております。そのような箇所は、最優先で対策を取らないといけないと思いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

鈴子川は形状と勾配の関係から、土砂の堆積が著しいため、下流・上流と毎年のように浚渫を行っている現状がございます。

御指摘の箇所も稲等の収穫後に再調査を行い、必要に応じて浚渫の実施を検討したいと考えております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

鈴子川、先ほども申しておりましたけれども、河口付近もよく氾濫するため、浚渫及び

橋の架け替え等を行いました。まだ浚渫していない箇所、周辺の農家の方々はまだしてくれないのか、と待っております。農家の方々と話し合いながら稲刈りが終わった後とか、そういったのが終わったと、その時期と言わず早急な処置・対策をお願いしたいと思います。

台風や大雨のときに、現在の防災無線では市民に危険を知らせることは、ほぼできないのではないかと思っております。そこで以前にも質問しましたが、再度確認したいと思います。防災無線（配布）のために電波塔の設置、及び防災無線の各戸配布のスケジュールを教えてください。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

戸別受信機の配布のスケジュールについて、お答えをいたします。現在、市といたしましては、２８０メガヘルツ帯の周波数、昔のポケットベルが使用していた周波数でございますが、これを活用した防災無線での方針を固めまして、平成３０年度において実施設計の予算を計上しているところでございます。

予定といたしましては、実施設計終了後、平成３１年度において、中継局等の整備工事に着手し、あわせて防災ラジオの各戸配付を予定しております。

今後も関係機関と調整を図り、防災無線の整備拡充を図りたいと考えておりますので、御理解と御協力のほうをよろしくお願いをいたします。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

市民の命に関わるような大事な施策なので、１日でも早く利用開始できるようお願いいたします。

それまでの間、事前に予測される災害に対する周知業務ですが、既存の防災無線をはじめ、市の広報車や消防団など、ありとあらゆる方法を駆使して、危険を周知し、市民の生命・財産を守るため努力をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

現在ございます方法を最大限活用して、今後ともそういう避難の遅れのないように、周知の遅れのないように、全力を挙げて市民の生命・財産を守っていきたいと考えておりますので、よろしく御理解をお願いいたします。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

よろしくお願いします。以前、稲刈り後に台風がきたときに大雨が降り、川が氾濫し、田んぼの稲藁ごと流れ出て、側溝等に詰まり広い範囲で冠水したことがあります。

そういった時期に台風や大雨が予測されたときは、刈った稲藁を田んぼにすき込むなどの対策を取ってもらうことで、藁の流出を抑え、冠水の発生を抑えることができるのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

議員、御指摘の収穫後の稲藁のすき込みにつきましては、農家により耕起時期がまちまちな状況でございます。そのため関係機関・団体に相談しながら、関係農家に協力を求めたいと考えております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

農家の方々にしたら、忙しいときにできるか、ということになるかもしれませんが、前向きの御検討をよろしくお願いいたします。

続きまして、自主防災組織について質問いたします。地震発生時に大切なのが自助であり共助であります。その一つ、共助といえば自主防災組織がメインだと思っております。現在、豊前市には、幾つの自主防災組織がありますか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えをいたします。現在１３１の行政区がございますが、そのうち約１１０の組織で自主防災組織が設立されております。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

その１１０ぐらいの自主防災組織が、どのような活動を行っているのか把握しておりますでしょうか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。自主防災組織につきましては、現在、明神地区が本市の中でも、先進的な取り組みを行っているところでございます。年に１回、総会を行い、支援を必要とする方、支援を行う方の再確認を行うほか、地区独自で防災訓練を実施しているところでございます。

しかし、このように地区で、自主防災組織単位で活動を行っている地区は少ない状況でございます。市といたしましては、本年度八屋地区、及び八屋の昨年実施した残りの４地区及び千束地区の防災訓練を計画しております。市内の防災訓練が本年度で一巡することになりますので、今後は明神地区をモデルケースといたしまして、各自主防災組織単位で訓練が行えるような組織支援体制に努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

地域の会合等、あらゆる機会を活用して、正しい防災知識を持たせ、徐々にレベルアップさせることも必要と思いますが、活動をよろしくお願いいたします。

続きまして、地震対策について質問いたします。

いま現在、地震が発生した場合、倒壊のおそれのあるブロック塀や危険家屋の状況は把握していますでしょうか。また、そのような危険箇所があれば、事前に地域住民に周知して、地震発生時は、その付近に近づかないようにしておいたほうがいいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

危険なブロック塀の状況でございますが、県土整備事務所さんのほうで小学校の周辺や宇島駅周辺のブロック塀等の箇所の調査等は行っていただいたところですが、まだ危険なブロックの把握には至ってない状況でございます。

現在、市のほうでは、ホームページや市報でブロック塀の危険性について周知を図っているところでございます。

今後、倒壊の恐れのある危険箇所等を把握した場合には、関係課と連携しまして沿道に何らかの警告表示やコーン等を設置するなど、市民の方が、けがのないような対処を行っていきたいというふうに考えております。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

危険家屋に関して、お答えしたいと思います。平成２９年度末で、危険家屋は１５７軒であります。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

ぜひともそういった所は、近所の方々に周知して地震のときなどは近づかないように、ということを周知していただきたいと思います。

大西にあります集落排水処理施設の建物を有事のときに使用するものの、備蓄倉庫にするという話しがあったと思いますが、進捗状況をお願いいたします。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。大西の浄化センターの防災備蓄倉庫への切り替えについては、現在、上下水道課にて公共下水道へのつなぎ込みを終えまして、施設のほうで清掃処理が終了しているとこでございます。

今後は、上下水道課と総務課で電気、機械設備の撤去について協議を行いまして、処分するものと引き続き使用するものと振り分けるようにいたしております。また各フロアの状況に応じ改修した後、早い段階において備蓄品を配置しまして、防災備蓄倉庫として活用してまいりたいと、そのように考えているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

現在、有事のときのために、豊前市が備蓄している非常用の食品や日用品の備蓄量、場所等は把握していますか。また市民何人分で何日など分かれば教えてください。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

防災備蓄品につきましては、福岡県備蓄基本計画というものが、平成２６年に策定されておりまして、これに基づきまして、市町村は１日分、３食ですね。その備蓄食糧の確保に努めることとなっております。市では平成２７年度から飲料水や水を加えることで御飯ができあがるアルファ米などの食糧の備蓄に努めているところでございます。

また、福岡県の地震に関する防災アセスメント調査報告書では、豊前市の避難者数の想定は１０８７名と推定されておりますので、これを基準として現在備蓄を進めているところでございます。

現在の備蓄飲料水については、２リットルの水が７００本、備蓄食糧が約１８００食となってございます。県が推進しております平成３０年度末までに、当面２食分の食糧の備蓄に向け､市といたしましても継続的に備蓄食糧の確保に努めているところでございます。

備蓄品につきましては、庁舎の地下室に備蓄しております。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

非常用の食品などは、消費期限があると思いますが、どういった周期で入れ替えを行っていきますか。また、入れ替えした食品はどのようにする予定でしょうか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。食糧備蓄品につきましては、食料品が約５年、飲料水が約７年と賞味期限がございます。賞味期限の近づいた食糧備蓄品については、家庭においての食糧備蓄品の推進、及び防災意識の向上を図るため、防災訓練時において実際に試食をしていただくことなどを考えております。

また、福岡県が所有する賞味期限が近づいた備蓄食糧をいただきまして、防災訓練にて参加していただいた住民の皆様へ配布したケースが過去にもございます。また、地域が主催する防災訓練や子どもを対象とした防災学習の際、家庭における食糧備蓄品のサンプルとして活用していただいたケースもございます。以上でございます。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

今おっしゃいました、地区の防災訓練等で使用するなど、無駄のないようよろしくお願いしたいと思います。

豊前市における防災に関することは、豊前市地域防災計画で細かい部分まで、詳しく決められております。ただし平成２２年から更新されていないようですので、そろそろ見直しの時期なのではないかと思いますが、早急な検討をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

豊前市の地域防災計画につきましては、いま御紹介ありました２２年に作成をしておりますが、この後、東北の大震災がございまして、その後いろんな法改正がございました。

それに沿って２８年の３月に一度見直しを行ったんですが、その後すぐに、熊本の地震がありまして、２８・２９年度にかけまして、さらにそういう対策の見直し等を踏まえまして、今年３月の防災会議にて、最終的な改定を行いまして、現在製本に向けて最終調整を行っている、そういう状況でございますので、できましたら、また皆様のほうにお知らせしたいというふうに考えております。以上です。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、環境関連施設について質問いたします。現在、能徳工業団地入り口から直進方向に下水を引く工事を行っていますが、最終的には、し尿処理場まで延長し、し尿を下水に投入できる位置までいくことと思います。その工期はどれぐらいをみているのでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

つなぎ込みのための下水道工事につきましては、平成３０年度中に完了する計画で工事を実施しているところでございます。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

それまでの期間、現在の施設で大丈夫なのか、また、今の施設は後どれぐらいもつのか、分かれば教えていただきたいと思います。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

４月から環境施設組合が市単独で運営をすることになりましたが、これまで同様維持管理には十分の注意を払っておりますので、当面は不安のないようには対応していきたいというふうに思っております。

ただ、先ほども下水道の話しが出ましたが、管が今年度末までには工事が終わるということでありますので、速やかにそちらに切り替えられるよう、いま協議をしているところであります。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

３月議会の新年度予算で、経費削減のため新設と既存の施設を使う方法を比較・検討するために、約１５００万円の設計費用を組みましたが、それはいま現在、どういうふうになっておりますか。

また槽など、コンクリート構造物は、見えないクラックなどもあり、非破壊検査等をしっかり行わないと、後々困ることとなると思いますが、検査の状況はどうなっているんでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

大きなプロジェクトの場合には、通常、基本設計をして、事業の趣旨や目的、また基本的な構想、考え方などを明らかにして、それを踏まえて実施設計に入ります。そして、その後に建設工事を行うという流れになります。

３月議会でせっかく予算の承認をいただきましたが、施設の改修でありますので、もし基本設計をしなくても新設と改修とを比較・検討し、どちらのほうが有利であるのか、的確な判断をするための材料が揃うのであれば、設計委託については少し様子をみようということで、現在、保留をしております。

ただ、改修の場合に使うであろうと予想される槽の点検だけは、すべきではないかということで、槽の点検については５月の下旬に行ったところであります。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

既存の施設を使うとなると、再度みやこ町・築上町と金銭的な交渉が発生したり、長持ちすると診断された施設がもたなかったりと、トラブルの原因になると思われますので、１０年、２０年と安心して使える施設を新設したほうがいいと思いますが、いかがでしょうか。

○２番　内丸伸一君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

お答えいたします。確かに新設であれば当面安心でありますし、それにこしたことはないというふうに思っております。ただ、初期投資に莫大な経費がかかります。しかも今回は、市の単独事業として実施しなければなりません。

もちろん今の施設の老朽化が激しくて、この先とても使えないという状況であれば別なのですが、日頃からこまめに手入れをすれば、まだまだ１０年、２０年は使えるというこ

とであれば、これを使わない手はないというふうに思いますので、既存の施設を使うという考え方も有効な手立てではないかということで、いま比較・検討しているところであります。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

３月議会で１５００万円の予算をとって設計委託をするというのを、まだ今ちょっとやっていないということですが、下水投入前処理施設などの工事着工の開始の目途はいつ頃でしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

新設でいくのか、改修でいくのか、その方向性が決まった段階で速やかに事業に着手できるようにしたいと思っております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

それは、はっきりは分からないということでよろしいでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

１４日の日に、文教厚生委員会を開催しまして、そのときに資料に基づいて説明をしようと思っておりますので、その際に、詳しく御説明はしようというふうに思っております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

地元六区、及び漁協との協議はどうなっていますか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

その件についても早く関係者の方々とお話しを持たなければ、というふうには思っておりますが、まだどちらでいくのか、その方向性が定まっておりませんので、そちらが固まり次第、速やかにお話しに入りたいというふうには思っております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

地元六区で構成する協議会は、平成２８年１２月６日に当時示されていた、し尿処理場の下水投入方式前処理施設建設で協定書を締結しております。その後、１年後の平成２９年１２月８日に念書を取り交わし、地元六区とはなんの支障もなく話しが進むようになっているはずなのに、なぜ進まないのか。

今度の文教厚生委員会で、また説明するということですけど、その話が終わったら地元協議会にしっかりと説明をしたほうがいいと思いますが、どうでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

遅くとも議会で御説明をした後に市としての方向性をはっきりさせて、その後に地元の方々とお話をしたいというふうに思っております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

地元協議会では、安全で安心できる施設・方法なら、早急に物事を進めてほしい、という意見も出ておりますが、ぜひとも早急に進めて皆さんにちゃんと説明していただきたいと思います。

地元漁協でも担当者が来て説明するだけではなく、責任者が組合員に誠心誠意、説明をしてほしい、という意見も出ているみたいですが、そういったことをする用意はありますか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

話合いをするというのは大事なことでありますし、協議をするということも大切なことでありますので、いろんな方の御意見は参考にしていかなければと思っております。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

地元六区や漁協だけではなく、吉富・上毛両町との協議の進捗状況はどうなっているんでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

４月に私と生活環境課長の二人で、吉富・上毛両町の町長をお尋ねし、お話をしてきました。その際に、いま施設の新設をする場合と既存の施設を使って改修する場合の比較・検討をしております、はっきりと方向性が決まった段階でまた報告に来ます、ということをお伝えしてきました。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

地元六区をはじめ、地域住民の大半は決められた計画を決められたとおり実行して、この問題を早く解決させてほしい、というのが本音だと思います。議会がわざと遅らせているというような声も出ていると聞いておりますが、そのようなことは全くなく、提案された案に対して、責任を持って対応している結果だと思っております。

元々の計画が実行されていれば、ごたごたすることもなく、２９年度中には新しい設備に更新し、稼働していたはずです。

しかし最初の計画も頓挫し、次の計画も既存施設再利用の検討など、計画の変更で前に進んでいないように感じます。着工が遅れれば遅れるほど、豊前市に多大な損害を与えているということを認識したうえで、地元住民の声に真摯に向き合い、常に進捗状況をしっかり、地元六区や漁協に説明をしながら、この問題の早期解決のため、力を尽くしていただきたいと思いますが、最後に、市長の見解をお願いいたします。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

生活インフラの本当に大事なところでございます。就任以来、いろいろ経過がございます。ただ長期にわたって安定的に財政負担をいかに少なくしながらやるのか。お金かければいくらでもできます。そんな財政力は、いま豊前市にはありません。

そこを踏まえた上でしっかりと経費を削減できるように、いま頑張っているところでございます。ぜひ御協力をよろしくお願いいたします。

○議長　磯永優二君

内丸議員。

○２番　内丸伸一君

先ほども言いましたが、着工が遅れれば遅れるほど、豊前市に多大な損害を与えているということを、しっかり認識した上で、まだ地元の区長さんたちも、後ろで聞いております。しっかりと取り組むことをお願いいたしまして、私の質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長　磯永優二君

内丸伸一議員の質問が終わりました。

次に、平田精一議員。

○６番　平田精一君

平成豊明会、二番手の平田でございます。きょうは生活インフラについてと、２番目として中山間地域の諸問題について、大きく２項目を質問させていただきます。

今回、部長制最初の一般質問となりますが、部長は大変だと思いますけど、誠心誠意の答弁をお願いしたいと思います。

まず１項目目として、生活インフラ。同僚の内丸議員が質問しましたが、まず同じようにし尿処理について、お伺いしたいと思います。立場の違った意味での質問になると思いますので、よろしくお願いいたします。

経緯としては、みやこ町・築上町の脱退により、豊前市は単独になり、処理方法としては公共下水に流し込む方法しか残されてない状態ですよね。そこで、現在の計画の進捗状況。さっき内丸議員に答えたとは思いますけれども、現在の状況はどうなっているんでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

先ほどと重なる部分もあるかと思いますが、お答えいたします。

３月議会以降の動きに関しましては、既存の施設を改修して使用する場合にどれぐらいの経費がかかるのか、工期がどうなのか、どの部分を使えるのか、そういったところの検討をしております。また改修の場合に使用するとなると、やはり槽が、今どういう状態にあるのかの点検も必要と思われますので、その点検を５月下旬に実施したところであります。そして、それを踏まえて、いま新設の場合と改修の場合とで比較・検討をしているところであります。

また、先ほども申し上げましたが、吉富・上毛両町と一緒に運営するほうが経費的にも、また効率的でもありますので、そういった両町との話し合いも進めているところであります。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

その結果ですね、いま調査しているということですね。いつ頃出るんですか。検査が出て初めて設計に入って、それから工期になると思いますから、そこがはっきりしないと、いつ頃から稼働するということが分からないと思うんですよね。その日程は立っていない

んですか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

新設でいくのか、改修でいくのか、そこがまずはっきり決まらないと、その後にどういった工程になるというのが、確定できませんので、まずは新設でいくのか、改修でいくのか、今議会中には市としての方針を定めたいと思っております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

さっき市長が答えたように、予算の厳しい、財政の厳しい中で、し尿処理場を今後どうするかということが大変なことだと思います。

ただ、安かろう、悪かろうでは、実際問題として、今やってそれで１０年しかもたないといったら、また１０年後に同じような問題が出てくるわけですよ。そこのところを、しっかり考えて、お金はかかる、仕方ない、生活インフラですから。その財源をどこから持ってくるかということは、非常に厳しいところはあるとは思いますけど、私はやっぱり３０年はもつべきだと思います。せっかくするんなら。

一番困るのはどこかということ、後で言いますから、しっかり考えて。耐久年数について、１０年もてばいいという問題ではないと思いますので、そこのところはどうでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

施設が存在する以上、常に支障のないように管理をすべきであると思っております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

内丸議員が言われたように、地元六区ですね、漁協。もちろん建設する場所ですので、迷惑施設ということで、そこにやはり説明にあがるというのは当然だと思います。一番先に行くのが当然だと思いますし、二町等が合同でするというときに二町にお願いに行くことは当然だと思います。

だから、いま住んでいる私の立場から言えば、下水道施設をまったく通っておりません。恩恵を受けることもないし。例えば、いま止まれば一番困るのが、中山間地域、及び三毛門地域、いわゆる下水の通っていない所なんですよ。そういう市民に、実際どういう説明

をしてきたのか。たぶん豊前市の市民、そういう所の人は知らないと思います。いま下水がどうなっているのか。そして一番関心あるのが八屋六区、漁協と組長同士、それくらいしか、今のところ知らないんじゃないかなと思いますけども、そういう説明会はやっているんですかね。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

この件に限定した説明会というのは、過去に設けたことはないようであります。

ただ、市政懇談会が７月から１０数回にわたってありますので、市長やその他、関係部長とも十分協議しながら、そういった場を活用できないか、協議をさせていただこうと思います。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

実際問題ですね、急にし尿処理ができない。そこの処理場が壊れました、という話しになったときに、その間、もし新設ができてない場合は、どういう処理の仕方をするつもりでいらっしゃるんでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

もし、万が一豊前市の処理施設で受入れがどうしてもできなくなったということであれば、緊急的に近隣の自治体にお願いするということになるのかなと思います。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

その場合ですね、運送賃は必ずあがってくるわけですよ。大きい浄化槽を持っている所と言ったら、北九州とか大都市圏になると思いますし、そこから豊前市から汲み取って北九州まで運べば、ガソリン代だってかかってくるでしょう。

その負担増はやっぱり下水の通っていない住民から負担してもらわなければいけないということですね。そういうことになると思いますけど、その点はいかがですか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

それは重大な問題になりますので、私個人の判断で判断をするというわけにはいきませ

んが、やはり市の税金は使わざるを得ないのではないかと思います。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

それからですね、今さっき内丸議員が言われたように、単独でするよりも広域でするほうが、絶対安価に終わるわけですよ。ランニングコストが絶対下がってくる。

そこで、さっき部長が挨拶に行きましたということで言われましたけども、何回ぐらい行かれましたか、４月以降。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

両町長にお会いしたのは一度だけであります。あと日頃、課長レベルで必要に応じてお話をしているところであります。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

その中で感触としては、どんな感じなんでしょうか。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

まず、やはり市の方針がどうなのかを見極めているという感じだと思います。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

そしたら早くですね、調査結果を出して比較をなるべく早くすることによって、決着がつくわけですから。全然、調査もまだ終わってない状態では、今後いつになるのか、本当に正直に言って分んないじゃないですか。

さっきも言ったように、一番困るのは、中山間地域とか、いわゆる下水の通ってない所なんですよ。いま下水のある所は、毎日の生活に全然困らないわけですよ、誰一人。八屋六区はその迷惑施設がくるから、そりゃ問題があるでしょう。漁協もやっぱり流し込むから問題があるでしょう。だけど本当に生活に困ってくるのは、そういう地域だということを、肝に命じていただきたいなと思います。

いろいろ言っても、内丸議員もずっと質問しましたから、同じような質問になってきます。同じような質問をしてもですね、どうかなという気持ちもありますので、私の気持ち

としては、そういう気持ちで質問しているということを御理解いただいて、文教厚生委員会の中で、また詳しくやりたいと思います。

さっきも内丸議員が言っていたように、し尿処理問題。きのうも古川議員が少し関連質問をしました。今回、私も含めて４人、全部で５人の方が、こういうし尿処理問題について質問しているわけですから、議会としても本当に心配していることなんですよ、これは。本当に止まったときは、笑いごとでは済まされないことだと思います。

いま何とかかんとか動いているから、市民に説明する必要もないし、もし止まったときは市民に頭下げに行って、いちいち地元に挨拶というか、説明会を開かなければならないような状況になるんではないかと思いますよ。そういう意味で、早急に議会としても決着してほしい、計画性を示してほしい、そして実行に移してほしいから、５人もの議員が質問しているということを肝に命じていただきたいなと思います。

最後に市長に聞く前に、今回、部長制度になりました。前回の私の質問の中で、やはり部長制になると横のつながりを持つべきではないかと。問題を共有することが、部長の責任になってくるんだと思います。

今回も、部長ばかりが答弁していますし、部長は大変だと思います。だけど、こういう大事な問題について意識共有を持つためにも、部長がどういう意見をお持ちなのか、一人ずつ、簡単でいいですから答弁していただければなと思っています。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

御質問いただきました件でございますが、市の大きな問題でございまして、やはり全庁的に取り組む案件というように思っております。

内容については、当然内部でもって十分情報共有して、きょうの答弁にあたっておりますので、市民福祉部長が答弁した認識ということでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

この問題につきましては、産業建設部も公共下水の受入れ、水道の問題等を同じ認識で進めているところでございます。先ほど総務部長が答弁したとおりですね、各部長、各課連携しながら進めているところでございます。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

この問題につきましては、先ほど来、担当部長も御答弁申し上げておりますとおり、や

はり豊前市にとって、いま一番、喫緊の課題であろうということの認識をしております。その上で、情報を共有しながら市民生活に支障がないように進めていければ、というふうに考えております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

しっかり問題共有意識を持ってやっていっていただきたいと思います。本当に大事な問題がもう目の前にきているわけですから、生活インフラの一番重要な問題だと思いますので、１人部長に任せるんじゃなくて、４部長が話し合いながら、市長を中心にしっかり考えていただきたいなと思います。

最後に市長、この意見いかがでしょう。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

市民生活に直結した、重要な問題と言いますか、我々の与えられた使命でございます。安定して安心に使える環境づくりというのが求められるわけでございますので、頑張っているところでございます。

いま部長、それぞれに御質問をいただきましたが、我々は部長会を含めて、このテーマにつきましては、全員で課題を共有し知恵を出し合っていこうということで、週一度必ずこういう話しが出るようになっておりまして、私のほうからも問題提起をし、皆の知恵をもらうということで取り組んでいるところでございます。

今後も、御指摘のようにならないように努力していきたいと思います。どうぞ御協力のほど、よろしくお願いします。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

し尿処理、いろいろ水利あたりを質問すれば、いろいろあるんでしょうけど、もう早急に決めていただきたいなという思いを込めて、次の質問に移りたいと思います。

次に、生活インフラの上水道及び水道料金について、お伺いします。

豊前市は、他の市町村からみて、水道料金が高いと言われ、現に市民の声として水道料金が高いため、子どもの水道の使い方について特に注意している、という声を聞いたことがあります。現にもらった資料を見ても、県下でも５番目ですかね、高い行政地区になっています。その原因としては、どういう原因があるんでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

本市の水道料金につきましては、いま議員、御指摘のとおり、県下で５番目ということでございます。料金が高い理由といたしましては、県平均の給水原価が１立法メートルあたり１７９．２円でありますが、豊前市の場合は、２７８．２円と９９円割高になっているところでございます。

主な要因といたしましては、他の自治体と比べて経常経費に占める京築地区水道企業団からの受水費の割合が５９．４％と高く、企業団における他の構成団体平均２７．７％に比較すると、２倍近い数値になっている。そこが単価を押し上げている要因というふうに分析しているところでございます。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

ということは、責任水量が多いから、需要と供給のバランスが狂っているから高くなるということですかね。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

いえ、現状ではですね、水道企業団さんのほうに、受水を依存している割合が高いと、その結果、割高になっているという状況でございます。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

その中で豊前市の水道料金が高いということですね、ちょっと聞いた話ですけど、企業の中では地下水を掘って、それを利用して、企業として水を使っているということを聞いたことありますが、実際にそういうところはあるんでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

以前から既設で井戸を活用されていて、営業の結果、工業用水等に切り替えていただくという傾向は、最近はございます。

水道水を使っていて、井戸を掘ったというのは、今のところ１社ということで、大半はやはり、深井戸等を掘る際には周辺地域の方々の同意等が必要な状況になっていますので、それとまた井戸を掘るためのコストもかなりかかるということで、現状、水道水の使用を

していただいている企業が大半という状況でございます。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

先ほど内丸議員も言われたように、内丸議員は言われてないんですかね、きのうの質問の中であったんですかね、伊良原ダムの完成により、責任水量が大幅に２７００トン増えると言われています。

今でも水道の特別会計に上水道だけでも、３千万円の補てんをされていると思いますが、今後財政の厳しい中、補てんする金額がなお一層上がってくるのか。

単価が下がるという話しがありますけど、伊良原ダムができることによって責任水量に対して、どれぐらいの経費がかかってくるのかを教えてください。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

議員、御指摘のとおり、現在、一般会計補助金を３千万円いただいているところでございます。平成２１年度では、６２００万円の補助金をいただいていたわけですが、その後、給水収益が増加したり、人件費の削減など行う中で、平成２８年からは３千万円に減額しているところでございます。

今後、現状２７００トンの給水から６４００トン、企業団のほうから引き受ける計画ではございますが、水道企業団の構成団体の幹事会等で協議しながら、現状の給水単価よりも受水費の引き下げをお願いしたり、また責任水量の範囲内で必要水量の排水計画等を図っていただくことによって、そういった経費を下げていく努力をしていきたいと。

また、収益面におきましても、し尿等への希釈水への利用とかバイオマス発電等、新規の企業さんへの給水の確保を行うことによって、無駄な水が出ないように、また利用料の増収等を図っていきながら給水単価の値上げにつながらないように、というふうに検討しております。

結果的ではございますが、やはり受水量が３７００トンから責任水量の６４００トンに増えることによって、給水単価、受水単価は下がったとしても、相当の費用負担、補助金の増額等はお願いせざるを得ない状況でございます。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

次に、もらった資料の中の水道事業収益的収支決算書を見ても、近隣の市町村と比べても、当年度純利益を見ると豊前市だけが赤字である。行橋は４億５千万円ですね、みやこ

町は４２１万円、吉富町で２千万円、築上町は４９００万円強の黒字というか、出しているんですが、正直言って民間企業なら赤字部分は切り捨てていきますよね、企業経営としてはですね。

ただ、行政はそういうことは、まずできない。それで、そのためにも赤字を減らす努力が必要だと思いますが、いかがでしょう。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

御指摘のとおりですね、平成２８年度決算では、１２７３万３千円の赤字決算というところでございます。これは、先ほど説明させていただいたとおり、いま一般の補助金を下げた中で、震災以来、九州電力さん等の水需要等もあったわけですが、原発稼働にあわせて利用水量の減少に伴って収益が悪化したと。ただ、過去の内部留保金等を充てながら、なんとか現状をしのいでいるような状況でございます。

他の市町の状況等をお伺いする中では、やはり広域水道だけではなくて、自前の上水施設等を持ちながら、そういう先行投資的に内部留保金を確保していく傾向もあるという話しでございます。何にましても先ほどお話しをさせていただいたとおり、新たな需要先等を一生懸命探しながら、収益の改善に努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

さっきのし尿処理の問題に関連してくるんですけど、もちろん伊良原の水が増えてくれば責任水量が増える。有効利用として、し尿処理の仕方に水を流し込んで下水の流し込みを考えたんだと思いますけど、そこで下水処理を豊前市単独でやったとしたら、何らメリットがないわけですよ。量が増えたから豊前市でぐるぐる回すだけで、利益はまったく生まれてこない。豊前市が買った値段をまた豊前市に戻すような感じになってくる。

吉富・上毛が入れば、向こうが使った分だけ水道料金では、少しは入ってくると思うんです。少しではないと思いますけど。

だから絶対にやっぱり広域でやらないといけない。何ら利益が出ないということになってきますので、そこのところは、市民福祉部長も考えてやっていただきたいなと思います。せっかく、下水の流し込みしかなくなってきているわけですから。

そして将来的にですね、合併浄化槽が増えてくれば、処理能力、処理量は多分減ってくるんではないかなと、予想としてはですね。やっぱり合併浄化槽の最終汚泥ぐらいしかなくなってくる。どんどんやっぱり合併浄化槽を普及させるべきだと思いますので、水問題

とあわせてしっかり取り組んでやっていただきたいと思います。

最後に、これも市長に聞かないと、広域になりますので。これだけ人口減少が進み、責任水量が増え、人口減少が進むということは使用量が減ってくるわけですから、このままいけば、なおさら水余り状態になってくると思います。

そこで、いま現在、北九州を中心とした連携中枢都市圏構想というのがありますよね。そこには市長は出席されているんだと思いますけど、いま京築の企業団だけではなく、水道企業もそういう連携中枢都市圏を利用しながら、北九州市と連携を組んで、大きな範囲で水利用をぐるぐる回していくように考えていくべきではないかと思いますけど、市長その点いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

北九州を中心とした１７市町で連携中枢都市圏を進めているところでございます。いろんな施策についてお互いに力を合わせていこう。無駄を排除し、もっといい効率のという流れがございます。その中に水道事業というのがあるかと思います。

今いわゆる横につながる水平合併というのと、水道企業団をどうするのかという、水道企業団を巻き込んだ垂直合併、こういう議論はございます。

今後どのようにすれば負担の少ない効率的な運営ができるのか、しっかり研究をしていきたいと思っております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

これだけ人口減少の続く中で、やっぱりこういう生活インフラの事業っていうのは、広域で考えていかないと市町村がもたなくなってくるんではないかと思いますので、しっかりやっていただきたいと思います。

続いて、中山間地域の諸問題について、１点ずつお伺いしたいと思います。

１点目として自然環境保護対策についてお伺いします。この季節、台風シーズンとなり、水田の耕しが始まり、また法面の草刈も始まり、素晴らしい景色になるのですが、利益率の低い１次産業ですが、ある意味素晴らしい環境整備だと思うのです。

ただ今後、高齢化や有害鳥獣の被害により、段々と農作業ができなくなり、耕作放棄地となっているのが現状です。今後、法面の草刈などが、非常に厳しくなってくると思うが、何らかの手を考えているのか、荒れた自然環境になれば豊前市にとって、観光的に見てもマイナスだと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

議員、御指摘のとおり、中山間地域では、耕作条件が厳しく、シカやイノシシの被害も見込まれております。各種事業を活用し、農地及び農村環境の維持が図れるように、支援をしていくことが非常に重要だろうというふうに考えております。

そういった中で、特に担い手が不足しているという現況が、一番の課題だろうというふうに考えております。先ほど御指摘のあった耕作者がなくなり、農地や法面等ですね、維持管理をどうやっていくのかという御指摘でもございます。

現在、集落内でそういった担い手の確保が困難となっているような場合については、やはりまず近隣の認定農業者の方なり、また組織でやっている営農組合等と連携を図っていく。連携を図る中で多面的機能の維持支払制度等を活用して、そういった農道、水路、また農地、法面等の維持・管理活動につながるように、行政としてもしっかり支援を行っていきたいというふうに考えております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

確かにそうなんですね。中山間地域、そういう企業を使ってすることは、作りたいという人もいらっしゃると思います。

ただ、一番引っ掛かるのは、有害鳥獣。別の予算がかかるわけですよ。全部、柵をしなくちゃいけないということで、いろんな経費がかかったり、手間がかかる。その割にはあまりできない。美味しい米ができているんだろうということで、皆さんの中山間地域のお米の評価は高いんですけど、やっぱり今後ですね、今までの高齢者というのは、この地を守ろうという意識があるわけです。生まれ育った土地を、先祖代々いただいた土地を荒れさせることはできないよねと、だから計算したら絶対あわない農作業を今までに延々とやってきたわけですよ。

それが、もう時代が変わり、こういう時代になったときに、はたして、その若者たちができるのかという問題があると思いますので、いろんな手段をもしよかったら考えていただいて、いい方法を教えていただければなと思っています。

続いて、補助事業。中山間地域には直接支払事業等があります。これを５年間、やっぱり１回計画すると５年間やらなくちゃいけない。段々厳しくなって、こういう作業をしなさいよ、写真を撮りなさいよ、水路をしたらこういうようにしなさいよ。余分に法面が高い所は、いわゆる都市部との交流をやりなさいよと。やっぱり国も補助を出している以上は、いろいろ言ってくるわけですね。

これがせっかくお金を貰います。１件１件したら大した金額じゃないんですけど、段々

その金額をこれぐらいの金額だから、もう止めましょう、という地域も聞いたことはありますし、今後増えてくるんではないかと思っています。それを止めてしまうと、いよいよ荒地になってくると思うんですよね。だからそこのところはどう考えていらっしゃいますか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

議員の御質問であります、中山間地域直接支払制度につきましては、当初、平成１２年度から始まりまして、現在４期目の対策ということになっております。

いま豊前市の中でも４期２０年近く行う中で、やはり段々、高齢化もそのぶん進んできているということで、次の対策では中々の現状では継続は難しい、というお話しも伺っているところでございます。

前期、４期目の対策から、重点項目がやはり農業や集落の将来ということで、維持するために、女性また若い人たちに積極的に参加していただくような、そういう方針と、もう一つは、複数の集落が連携する、一つの集落だけでなくてですね、近隣の集落で一つの組織を作る中で、それぞれが持ち分を、役割分担を行いながら維持活動に取り組んでいただく、というような方向性が出ております。

またそのために、隣の集落に協力する集落については、いろんな手当が付くような制度でもございます。そういったところを、次期、第５期については、十分説明をしながら、できる限り継続ができるように､支援体制を組んでいきたいというふうに考えております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

しっかり支援していただきたいと思います。

続いて、景観の農業振興地域に指定されている棚田ですね。いわゆる産家ですか、求菩提の下にある所ですね。先日、田植えはどうなのかなということで、ちょっと用事があったんで見に行ったら、見事に植えていただいています。

確かに、皆さん一生懸命管理してくれているんだとは思いますけど、これだけ高齢者になって、棚田というのは、経験がありますけれども、手間が相当かかるわけです。大型機械も入らない。軽４輪を横につけることができない。結構手作業が増えてくる。水の保湿も悪い、水を溜めても中々、ついつい干てしまうというか。

今後ですね、ここの生産者の方々にずっと継続してもらうためには、どういったメリットがあるのか、例えば少しでもお米が高く売れるとか、例えば補助金がありますよとか、せっかく棚田として残すんなら継続性が必要だと思いますので、どういった補助金あたり

があるのか、教えていただきたいなと思います。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

議員、御指摘の求菩提農村景観の棚田の保存策等についてでございますが、現在、求菩提農村景観連絡協議会を市の関係課と地元の方と組織をしているところでございます。

その中で、ことしの２月ですね、景観農振地区営農アンケート等をとらせていただいております。各人のですね、今後の営農に対する意向等の把握をさせていただいたところでございます。

また、地元の役員の方と今後の農業振興をどういうふうに進めていくのか、という協議をさせていただいております。

そういった中で、一応、昨年度から産家地区で、今までずっと作付けがされていなかった、犬ヶ岳駐車場の周辺等を７反ですね、そばの作付けが始まりまして、今年は求菩提そば振興組合さんのほうで、春そばをいま植えていただいて、結構いい生育状況になっているところでございます。

今の営農のサポートの状況ですが、本年度、まず獣害防止ができてないところ、イノシシ・シカ等の防除柵がされていない所として、鳥井畑地区で５５０メートル、産家地区で１１００メートルですね、国の事業等、活用して柵を張っていこうと。

また、先ほど御指摘がある農道とか水路等の改修につきましても、市のほうで、起債等を活用した事業の手当等も考えています。またそれぞれの機械等の乗り入れの厳しい農地等についても、何らかの対策等を練りながら、将来にわたっての営農が継続していくように、また、より収益性の高い作物として、山菜類、例えば葉わさび等を含めた中での作物振興等も、今後、地域の方々と十分相談しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

せっかく求菩提というのは、豊前市の中での観光名所ですね。せっかくした以上は、皆で守っていただけたらと思いますので、しっかりやっていただきたいと思います。

次に、空き家問題。豊前市は、空き家バンクをいち早く立ち上げてきたんだと思うし、確かに移住されてきた方もいると思うが、今後ですね、異常なスピードで増え続けていくんだと思います。私の知る限り、１年でもう数件ずつ、すぐ近所でそれぐらい増えていっている。

空き家としても、正直空き家の中でも、やっぱり時々帰って掃除をする空き家。逆に言

うたら、別荘代わりに使う空き家。完全な全くの廃墟になる空き家。三通りあると思いますし、今後この増え続ける空き家に対して、どういう対策をしていくつもりでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

空き家の増加につきましては､非常に深刻な社会問題になっているところでございます。

中山間地域、特に先ほどありました卜仙の郷周辺の鳥井畑地域にあっては、やはり飲食店等が結構立地がありまして、お蔭でほとんど空き家がないような状態でございますが、他の地域では、やはり空き家が目立っているようなところもございます。

ただ、民泊法等の改正もございましたが、まだまだそういう施設としての利用については、法令等のハードルが高い状況がございます。

また都市部では、外国人旅行者の上昇でホテルが不足しているような状況でございますが、民泊の場合は、営業日数等に制限がありですね、中々民間のそういう事業者が地方まで営業に来るというのは厳しい状況でございますので、やはり岩屋グリーンツーリズム研究会さん等とですね、よく連携して、そういう農村民泊等も地域を広げていきながら、将来そういう空き家の活用につながるように努力してまいりたい、というふうに考えております。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

空き家問題の対応といたしまして、平成２３年度より空き家バンク制度の開始を豊前市で始めております。３０年５月末現在で申しますと、物件登録数２０７件、契約成立件数１２７件、また売買・賃貸可能な物件は、５４件をホームページに現在掲載し、情報の提供、利用の御案内を行っているところでございます。

契約成立による利用者の人数は、約２２０名程度でございます。内、市外からの利用者も約１２０名を数え、また２９年４月から先月末までの１４カ月においても、登録物件、新規でございません、２６件。契約成立件数１８件となってございまして、この制度の運用により一定の移住・定住、人口対策の成果が上がっている、また空き家の活用が図られている、というふうに考えているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

きのうでしたか、為藤議員も質問されていましたけど、横武にですね、古民家を大改修して農家民泊ということで始めました。大金がかかったんだと思います。

今後ですね、この農家民泊を広げる上で、財政の厳しい中ですね、大改造ではなくですね、水回り、トイレ・風呂・台所だけを改修することによって、農家民泊に生まれかわることができないのかなという気がしていますけど、その点いかがでしょうか。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

宿泊施設につきましては、現在、農家民泊等については、簡易宿泊施設の許可を県のほうからいただいて、営業しているところでございます。

その他、やはり民泊法等の中でも最低限の安全確保とか、そういったところが課題になっているところでございます。そういった部分について、議員、御指摘のそれほど多額の費用をかけずに、そういったところができるかどうかというのは、今後、調査・研究をさせていただきたいというふうに思います。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

正直ですね、空き家というのは、子どもたち、子孫にとっては、かえって大きな負担、負の負担になってくる。ボロボロになったら解体しなくちゃいけない。解体費用も２００万円、３００万円かかってくる。

これは、ちょっとテレビ観ていたらそういうことがあって、温泉街の中に廃墟の温泉宿が残っている。隣の温泉の旅館にお客さんが来ると、その廃墟となった温泉宿が見えるから、相当文句を言われたらしいんですね。そうしたらそこはどうしたかと言ったら、市に寄付したらしいんです。そういう寄付ができるのかなと。その解体費用はどこがもったかと言えば、前の大きなホテルが３千万円出して、自己資金で解体するということで、そういう現状が、今いろんなところで起きているわけですよ。

だから例えば解体費用が、親族がどこに行ったか分からない。そういうときには、寄付をすればそういうことできるのかなと、ちょっと疑問に思っているので、そういうことはできるんでしょうか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。空き家の寄付については、過去にもそういうお話しを伺ったことがございますが、現在、豊前市として土地も含めて、そういうものの寄付については受け付けていない状況でございます。後の管理も含めて、税金等の投入が甚大になるのを想定すると、中々踏み込めない状況がございます。以上です。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

空き家問題、中山間地域だけではないと思います。豊前市全体で空き家が増えている。子どもたちが育っていく中で、そう遠くにはいないんですけど、近所に家を建てたり、隣の市に家を建てたり、そうして、やはりお父さん・お母さんだけ残って、亡くなられた時点で空き家になってしまう例がたくさんあると思いますし、今後大きな問題になってくると思いますので、真剣に取り組んでいただきたいなと思っています。

次に、防災対策。これはもう内丸議員も言いましたので、私が住んでいる所ということで、中津市の耶馬渓、雨が降らないのに崩落する。６人もの方が犠牲者になった。他人事ではないなと。

僕らが見る風景は、防護柵がある。ずっと防護柵が、帰る途中は家の裏にあります、全く同じようなものが。あれを簡単に乗り越えてくる災害を見ると、ああ、これは他人事ではないと。

さっき内丸議員の質問の中で、総務課長が全部答えたように、確かにその災害があった後、県のパトロール車が増えました、登ってくる回数が。何回も、あっ、また来ているな、また来ているなと。多分調査していたんじゃないかなとは思うんですけど。先日かな、新聞にも福岡県の全域を調査済みですと。異常はありませんと。ただ、さっき内丸議員が言いよったように、水害の例は実際に災害が確かにあるんですよね。

やっぱりしっかり広報して、早い避難をさせるということが、災害を防ぐことだと思いますので、しっかりやっていただきたいと思ってですね、市長、最後になりますので、一言お願いします。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

耶馬渓のあの崩落事故には、本当に６人の尊い命、またお一人のお腹の中には、新しい生命もということで、非常に心痛む、残念な事故でございました。御冥福をお祈りしたいと思います。

また同じ流れという、景観的にはすぐ傍には同じ景観のような山が、なんということかと。雨も降らないのに崩落していったという現実を見ますと、私たちも、先ほど平田議員が言われたように、他人事ではないというのが実感でございます。

私たちもすぐに対応ということで、救助はもちろんでございますが、対応しているところでございますし、先ほどから御指摘のありましたように、県のほうが動いていただいております。昨年の朝倉、東峰村のあの大水害を受けて、私もさっそく県の砂防課のほうに

県土整備事務所を通して、あれはどういう地質だったのか、形状だけではなくて、外観だけではなくて、土壌にも問題があるんではないかということで、調査依頼をしておりました。その調査が、まだできないうちに、動かないうちに、ああいう事故になりました。

県の砂防課が窓口ということをお聞きしておりますので、そういう面でも、この間から県のパトロールカーが来て調査しているんだなと。ほとんど外観だろうと思います。本当の土質・土壌、１５５箇所でしたが、危険特別警戒区域の中でも、ある意味での危険度のランクがあろうかと思います。そういうところを我々にやはり教えてもらって、早急に対応できるような体制を取っていく、これが大事なことだろうと思います。

いずれにしましても、中山間地域に住む皆さんが、高齢の方が多い中で、頑張っていただいております。私たちとしても、その人たちが安心して暮らせるように、しっかりと関係機関共々、連携を取りながら対応していきたいと、安全対策を講じていきたいというふうに考えております。

○議長　磯永優二君

平田議員。

○６番　平田精一君

しっかりやっていただきたいと思います。

これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長　磯永優二君

平田精一議員の質問が終わりました。

ここで議事運営上、暫時休憩をいたします。

なお再開につきましては、放送にてお知らせいたします。

休憩　１１時５０分

再開　１３時１０分

○議長　磯永優二君

午前中に引き続き、会議を開きます。

執行部より先ほどの発言の訂正をいたしたいと申し入れがありましたので、これを許可いたします。

産業建設部長。

○産業建設部長　中川裕次君

午前中の平田議員さんの水道料金の御質問で、企業団における他の構成団体平均値を２７．７％、本市との比較を２倍と答弁いたしましたが、正確には、構成団体平均値が２１．８％、比較が約３倍の誤りでございました。

今後このような間違いが起きないよう、答弁内容につきましては、十分に吟味いたします。申し訳ありませんでした。お詫びを申し上げ、訂正をお願いいたします。

○議長　磯永優二君

それでは、一般質問を続行します。

平成豊明会の質問を行います。

次に、黒江哲文議員。

○５番　黒江哲文君

それでは、平成豊明会三番手、市民目線がモットーの黒江哲文が一般質問を行います。

それでは、本日の質問のテーマは、大枠は豊前市の取り組みと官民の連携についてであります。小項目は、市政方針について。２番目が市民団体との連携と予算について。３点目が教育問題についての３点であります。豊前市がよくなるよう全力で質問していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず初めに、１点目、市政方針について質問いたします。

豊前市の取り組みとして、平成３０年度の一般会計予算も約１１４億円組まれました。やはり豊前市も様々な事業を推進する上で、現状としては、限られた予算、厳しい予算の中での割り振りをしたことだと思います。

そこで豊前市の取り組みとして、ハード事業・ソフト事業と予算配分があるかというふうに思います。まず、私が気になりますのがハード事業について。豊前市は予算が厳しいというが、実際どのような現状なのか確認をしていきたいというふうに思います。

ハード事業と言えば、いま近隣の中津市・行橋市においても、ここ１０数年で大きく街並みが変化したように感じます。吉富町も駅前がきれいでありますし、築上町の椎田駅前も開発に取り組むと聞いております。その他、様々なハード事業をやっていることかというふうに思います。

各自治体も街並みの開発、公共施設の建替えと、着手に至るまでは、それだけの綿密な計画があったことだというふうに思います。そこで豊前市を振り返っても、街並みは変化してきたのか、とても疑問に思うところであります。

そこで質問でありますが、豊前市での現在のハード事業の計画、優先順位がどのようになっているのか、総務部長にお尋ねします。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

ハード事業の優先順位等について、お答えいたします。

現在、毎年でございますが、この時期に各課から１千万円以上の投資的経費については、５カ年計画を提出していただいております。それにつきましては、現在、豊前市総合計画に沿ってのものでございます。それを元に、５年間の財政計画というものを作る中で、事業の熟度、そういうものを踏まえて、優先順位を付けていく。そういう作業を毎年行って

いるところでございます。

５カ年計画ではございますが、毎年そういうようなかたちで、ローリング方式で微調整しながら、時代、経済情勢にあわせながら修正をかけていくと、こういう手法を取っているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

優先順位の今あがっている項目について、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。後期基本計画から、また現在の状況から、まず１点は、今年度防災無線の設計費を計上させていただきました。これに対するハード事業が、来年度４億円前後の予算があがってくるんではなかろうかと思います。まず、これが今考えている優先順位の第１点。

それと現在、し尿処理のつなぎ込み、この作業ですね。また１４日の日の文教厚生委員会でも御議論いただきますが、それに対する経費。また耐震の問題も全国各地でその耐震化のお話しがございます。庁舎の耐震についても、重要な課題だというふうに考えております。

また今、文化施設についても御議論いただいている中で、熟度、検討議論の中で、また５カ年の中でそういうものがあがってくるのではなかろうかというふうに考えておりますし、また学校も、数ある学校のそういうトイレの改修問題が目先の当面の重要課題というふうに認識しているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

いま総務部長より、総合計画の５カ年計画、そこに基づきながら、いま豊前市の優先順位、課題等をいまあげてもらったわけでありますが、気になるのはその計画について、どれだけの費用と年月を想定しているのか、その辺をお答えください。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。先ほどお答えしたとおり５カ年計画をですね、当面毎年ローリングするという中でございますので、その中で経済情勢を踏まえながら、また、それの個別の事業

の熟度に沿って予算を計上していくという姿になろうと考えております。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

そうですね。気になるのがその経済情勢というところでありますが、いま現在の豊前市の財源で、新規計画ハード事業に要する投資的予算額は幾らぐらいあるのですか。財務課長にお尋ねします。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

平成３０年度のハード事業に対する、投資的予算は、７億７５２２万円でございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

この投資的経費、いま言われた金額でありますが、道路・公園・学校など、将来に残る施設を建設するために使うということでありますが、この７億円の予算、この辺の大体行政の予算的な分というのは、中々難しい部分があるかと思いますけど、全て新規的ハード事業で使えるのかということでありますが、これに道路等の継続的な費用というものも予算の中にあるかと思います。それも含まれての、この約７億円の予算なのか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

いま申し上げました投資的経費の中には、道路橋梁の改修・舗装、小中学校、公民館、庁舎などの改修も全て含まれております。

本年度、新規事業といたしましては、先ほど部長から申し上げました、防災無線の実施設計、また千束保育園の遊具があがっているところでございます。それ以外は、多くが継続事業でございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

いま財務課長より説明がありました。その中に公共施設の老朽化の改修の工事など、急を要する事業費も豊前市の中には多いかというふうに思います。そのような費用も、いま投資的経費で支払われる、含まれているというふうな話でよろしいですよね。

（財務課長、頷く）

ということは、ハード事業に要する予算、約７億円についてですね、継続事業や老朽化の改修工事が入ると、開発的な新規で取り組む予算がほとんどないように感じるわけでありますが、その辺は、財務課長、どんな感じでしょうか。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

先ほど部長のほうから申し上げましたように、まず５カ年の財政計画というのを、毎年立てております。その中で、事業については、各課からあげていただいた事業を精査しながら取り組んでいるところでございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

私が言いたいのは、豊前市の予算というのは、投資的経費、新規事業、ハード事業ですよね、という予算の中で、今この予算を聞いてきましたけれども、今後の豊前市の開発などに投資する予算は、どのような推移をしていくのか、この辺が重要な課題だというふうに思います。

もう一度、財務課長にお尋ねしますが、自主財源の推移というものを確認しましたが、横ばいというところだというところであります。社会保障の扶助費の推移は、右肩上がりだというふうに聞いております。ここ数年で、約１億円ぐらいアップしたというふうに聞いているわけであります。

ということは、今後１０年、２０年後の豊前市の予測としては、人口減少に伴い自主財源のほうが減る可能性が高い。そして扶助費がさらに右肩上がりに膨らむと予想している。そうなると投資的経費がかなり圧迫していくのではないか、というところを懸念するわけであります。今後の投資的経費の推移は、どのように考えているのかお尋ねします。財務課長。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

投資的経費の推移につきましては、目の前の防災無線・し尿処理施設の問題、また市民会館、庁舎の耐震といった大きな課題がございます。各課よりの５カ年の事業計画を精査しながら予算化をしていますが、行政需要は非常に大きく、財政的には厳しい状況だと思っております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

それでは、今の答弁では今後の投資的経費が厳しくなるという予測だというふうに捉えます。それでは、公共施設など老朽化の改修工事が今後増えていけば、とても心配だというふうに感じるわけであります。新規開発どころか老朽化の対応で追われるのではないかというふうに思います。そのために、豊前市では長寿命化計画があるかというふうに思います。

今後の計画では、予定箇所が何件ぐらいあり、またどれだけの予算を想定しているのか、このようなことをまとめているのなら、お答えください。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

市では平成２７年に公共施設等総合管理計画を策定していますが、今後はこの計画に基づき、個別施設ごとの具体的な対応方針を定めるため、個別施設計画の策定が必要となっています。国からも、平成３２年度までに策定するよう求められているところでございます。

その中で、点検診断によって得られた、個別施設の状態や維持管理更新等にかかる対策の優先順位の考え方、また対策の内容や実施時期等についても定めることが求められていますので、順次取り組んでいきたいと考えています。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

今後、個別の計画ということは、まだされてない個別の計画もある、というような捉え方でよろしいのかというふうに思います。

本当にこれから老朽化の対応に追われていくと、新規で優先順位を豊前市で決めておりますが、いま以上の投資的経費を組むことは厳しいのではないか、というふうに感じるところがあるわけでありますが、そこでもう１点気になりますのが、重要なのは、その予算を補うための基金ではないかと思います。基金の現状をお尋ねします。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

積立金の現在高は、平成２８年度末で２７億円ほどでございます。特定の目的のために積み立てているものであります。財政調整基金は１４億円ほどで、これは年度間における財政の不均衡を調整するためのものでございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

約２７億円ということでありますが、そこで基金の総額、近年でこの２７億円を基準にして、増減はどのようになっていますか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

財政調整基金の繰入れ等もあった年もございますが、２８億円、２９億円、２７億円というような、ここ近年は推移をしております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

決算等でしましたが、平成２７年度から２８年度にかけて、約１億９千万円くらいの減ということでよろしいんですかね。

（財政課長、頷く）

というふうになりますと、これについて投資的経費を見ていく中で、やはりもう１点気になりますのが、市債と返済額がどうなのかということですね。このバランスであるわけでありますが、市債と返済額はどうなっていますか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長　林田冷子君

市債の残高は、平成２８年度末で１０７億円ほどでございます。元利償還金であります公債費は、１３億円前後で推移をしております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

本当に、市長、この数字の現実ですよね。この１０７億円、１３億円と言われましたが、やっぱり借りる分と、またする分とを差し引きすると、どの額なのかなというふうに思いますが、大まかにこのような数字を確認したところ、何か対策を練らないと、というところが一番気になるところであります。

このハード事業の予算が厳しい中で、どのような対処をすればいいのか。市民からの陳情や要望もたくさんあるかというふうに思います。

豊前市では、総務部長、先ほど言いましたが、優先順位を決めているわけであります。

いつまでにと、実際返答もできないような現状ではないかというふうに思いますが、その辺の返答、感覚的なものは、総務部長、どのようにお考えですか。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。区長さんからたくさんの陳情・要望書をいただいているところでございますが、住民の身近な、そういう道路、補修、こういうものについて、現在一定の限られた財源しか充てられていないのが現状でございます。

これを踏まえまして、現在、健全財政のために、行財政改革推進プランというものを作成して、自主的な健全化の道筋を今つくっているところでございます。

とにかく少子高齢化の中で、財源は、かつてのように右肩上がりではございません。右肩下がりの時代の中で、全ての歳出を一から見直す、そういう作業を現在進めているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

このような現状というのを、市長、市報の予算の中から、私が気になった分と、こういったものを、どうなのかという現状をですね、確認をしたいというところだったんでありますが、単純に基金を増やして市債を減らしていく、そして投資的予算をどうやってつくるか。それをやらないと、何もできないのではないかというところであります。

私は、じっとしていても厳しくなるなら、まず必死に補助金を取りにいくべきなのか、また収益を上げる事業を攻撃的に推し進めるべきなのか。その辺の市長の考えをお尋ねします。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

いま本市の財政について、現況は、財務課長からの答弁のとおりでございます。

そんな中で市民ニーズ・地域ニーズというのは、どんどん高くなっています。さらに子どもが少なくなり、いわば長寿化によって、活力を失うんじゃないかという予測も強いものがあります。

ただ豊前市が、このまま手をこまねいていていいのかと。私たちも、それはいかんぞと、頑張っていこうと。やはり投資するならば、効果の出るもの、投資対効果として高い、評価の高いもの。また安全性だとか、安定だとか、そういうものを優先的に取り組んできているところでございます。

補助金を取りに行け、という声も強いものがあります。補助金を取に行っても裏負担と言いますか、やはり地元の負担は３分の１、何分の１という負担がございますので、それに見合ったものでなければならない。

では、その他に豊前市に投資をしていただいて、税収を上げる、もくしは、そういう企業が来ていただいて雇用が増える、そういう道も努力しているところでございます。この辺についてもしっかりと取り組んでいるところでございますが、全体として、やはり豊前市がこれからどうなるんだという不安が、ある意味ではぼんやりと漂っております。そこを打ち破るものは何なのかという、やはりないお金の中でしっかりと、議会の皆さんとも協議しながら、優先順位を付けて元気になる方向で、我々も一生懸命努力していきたいなと思っているところでございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

今ですね、市長から補助金の捉え方ということで、やはり手出しがかかっていく分については、その費用を使ってしまうので気を付けなくてはならない、という考えを聞いたわけであります。

私もそう思うわけでありますが、やはり豊前市の計画ですね、この辺をやっぱりいろんな様々な計画を練って、使うべきものに、いろんな補助金の確保。こういったものを営業に行くという体制は必要なのかなというふうに思う部分がありますが、この辺については実際どうなのか、ということを私もまた勉強していきたいというふうに思いますし、きのうの質問でもあったわけでありますが、湾岸道路の質問で、市長もこの辺は、国や県が、という働き掛けをという話しもありました。また近隣自治体とも連携して交渉するべきだという話しもありました。私もそのように思うわけであります。

補助金を、やはりお願いするには議会と連携して、近隣自治体と連携して、またさらに地元選出の県や国会の議員と連携しながら、一丸となって交渉することが、今の豊前市には重要ではないかというふうに思うわけであります。もちろん市長も、県会の経験もありますし、その辺はいろんな考えがあろうかと思いますが、この団結力、一丸として交渉に行く、この辺の考え方はどのようにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

何を求めていくのかにもよります。どういう分野でどういうふうな補助金をもらいに行くのか。何をやるかをまず決める、それにはどんな補助制度があるのか。そのときに一番いいボタンを押さなければ、いい補助金は出てこないんではないかとも思っております。

力を合わせていくのは当然でございますし、そういう意味でボタンの押し間違えのない補助金の取り方というのも研究していく。そういう方向でも頑張っていきたいと思っております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

ぜひ、そのように、補助を取りに行くためには一丸となって、というところが、これからのこの厳しい中の豊前市に重要かな、というふうに思いますので、お願いしたいというふうに思います。

対策としての、もう１点が収益性のある事業に特化というところであります。財源が厳しい自治体こそ、収益が上がる事業に投資して、収益が上がればさらに投資をし、収益確保をしていく、ビジネス的な観点が求められるかというふうに思います。

例えば、全国的にもふるさと納税はもちろんのこと、命名権、クラウドファンディングといった税外収入もありますし、また中には太陽光事業などもあるようであります。そして人口対策に向けた住環境の整備など、様々な事業をしている自治体が多いようでありますが、そのような観点では、市長のほうは、先ほど申されておりましたが、どのような狙いでというのはありますか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

限られた財源、つまり自分たちでできる財政面での力の限界というのはありますから、そこを見極めた上で、そういう意味では、ふるさと納税も企業誘致も、まさに民間の皆さんの力を借りながら、ということになりますので、市に直接的に負担のない部分だろうと思います。

ただ、いろんな収益を目ざしてやる事業、それぞれあると思います。太陽光などもやってみたらどうかという、私も思いましたが、そのハードとその後の始末だとか、そういうのも考えて踏み切れなかったところもございます。その代わりに民間の皆さんの力を借りて出資していただき、そこにある意味では固定資産税など、税というかたちで貢献していただく。市が直接やるのか、それとも民間の力を引っ張り出していくのか。その辺が見極めどころではないかと思います。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

市長もこの財源の分と収益性のある事業というところの観点から、豊前市で言えば目の

前にあるのが、市長も言われた、ふるさと納税かというふうに思います。

そこで豊前市の現状のふるさと納税の売上等、現状はどうなのか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

ふるさと納税の現状について、お答えします。２８年度については、決算でお知らせしておりますが、２７年度の４倍以上の寄附をいただいております。

２９年度は、さらにその１．５倍の約７千数百万円の、いま歳入が入っておりますので、いま決算中でございますので、正確な数字は、また９月に報告させていただきたいと思います。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

これは、２８年度の数字からということは、２８年度は分かりますか。担当課からでもいいですけど。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

詳細については、担当課長から説明をさせます。

○議長　磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長　藤井郁君

２８年度については、約５千万円で、４９５４万３５００円でございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

ということで、収益性のある事業ということで、今この価格を言われたわけでありますが、成功している先進地と額が大きく違うわけでありますが、その辺の違いがなんなのか。

また近隣でも上毛町が実績を上げているわけであります。上毛町の昨年は、約１２億円ということですよね。今年度は２．５倍の勢いだという現状ということであります。この差はなんなのでしょうか。お尋ねします。

○議長　磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長　藤井郁君

近隣の状況につきましては、いま議員のほうから御指摘があったとおりですけれども、そのような自治体とわが豊前市との差を見ますと、一つは還元率の差であったり、返礼品の選定の基準であったり、あるいはポータルサイトの中で宣伝の工夫であったりというような違いによって、そのような寄附額の差が生じているんだろう、というふうに考えております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

ということは、返礼品の率としては、きのう総務部長のほうは、いま国の指導とかで、やっぱり３割という話しがあったわけでありますが、その辺の割率が、かなり近隣と違うというか、先進地と違うということですかね。大体どのような率ですか。

○議長　磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長　藤井郁君

還元率につきましては、他の自治体のうちは何割ですというような、はっきりとしたところを直接お伺いしているところではございませんけれども、それらの自治体が出している返礼品の状況を見て、うちとの比較の中での、あくまで推測でございますけれど、かなりの差があるだろうなというふうに考えております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

そうでしょうね。額にしてもかなりあるわけであります。ある統計を見ても、ふるさと納税、これ得している自治体が１２７９、損している自治体が４６２。その内容は、高価な返礼率で寄附を集めている。一方で税がどんどん減る自治体もある。

一部の自治体に寄附が集中し、自治体間で税の奪い合いが生じているということでありますが、豊前市は大丈夫なのかということでありますが、これ近隣を見ましても都市部が弱いということですよね。というふうになりますと、寄附の入と出の比率がどうなのかというところは調査していますか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長　藤井郁君

以前も一般質問でお尋ねのあったところなんですけれども、検証と言いますか、そのような比較はしてございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

この入と出の部分で、金額は大きく変わってくるわけですが、問題は、先ほど豊前市の財源が厳しい中で、こういう収入源上げるところに力を入れていくという話しがあったけど、やはり現実はどうなのかということですよね。

大体、上毛町のほうが３分の１ぐらいは自治体で使えるというような、大まかな数字かというふうに思いますが、これも大きな額ですよね、３分の１。豊前市も厳しいならこういうところにがむしゃらにいくべきではないか、というふうに感じるところであります。

そこで、総務部長のきのうの答弁では、売上重視ではなく、そういう収益よりＰＲ、地元の関係というふうに言われておりましたが、私は、それは財源が安定している自治体が言うべきことかなというふうに感じるところであります。頑張り次第で何億円と収益が上がるということは、やっぱり大きいわけでありますよね。

数億円と売上げる仕組みを作れば、やはり潤うのは地元の商業者ではないかというふうに考えるわけでありますが、総務部長、その考え方をもう一度お尋ねします。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。このふるさと納税については、一定のルールに基づいて、現在全国の自治体がある中で、一部の自治体がやはり高額な返礼品、また地域と関係ない商品を販売する、返礼品で出すというようなことが、国会でも取り上げられて問題になっているところでございます。

昨年末から今年の３月、４月と総務省のほうからいろいろな調査も来て、指導も受けているような状況でございまして、私ども豊前市としては、ふるさと納税の趣旨を最大限に生かしながら、やはり議員のおっしゃっているように、最大限結果も出していかないと、というふうには考えているところでございます。

したがって次からの対策についても、いろいろと課内で議論しているところでございまして、また３０年度においても新たな取り組みに向かっていきたい、というふうに考えているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

先ほど言ったように、得する自治体と損する自治体が出てきたり、返礼品の率とかですね、そういったものがやはり問題となって、いま国から指導というような部分もあるかというふうに思います。

問題は、やはりそれで稼いでいこうとした自治体が実績を上げたという現状ですよね。ここについて、これは上毛町に秘訣はなんですか、と尋ねたら、先進地に行くことです、というふうに言われておりました。

行政は成功事例のノウハウを教えてくれる、ということでありましたが、そのように勉強して成果を生かすということが必要ではないかというふうに思いますが、この１件につきましても、そのような努力をされたのか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。私もことしから担当したようなかたちでございますが、昨年からいろいろ課内では調査をしているとこでございます。

やはり現在の状況では、やっぱりネットの中で最大限ＰＲしていくことが必要というような状況でございまして、そういう業者の選定について、さらに進めていきたいというふうに考えているところでありますし、またその取り組みの中でいろいろな調査も踏まえておりますので、細かい調査内容については、担当課長のほうから説明させますので、よろしくお願いいたします。

○議長　磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長　藤井郁君

先ほど部長のほうから、新たな取り組みについても研究、それと今後取り組もうとしている、という御答弁申し上げましたけれども、具体的に申し上げますと、返礼品の提供事業者、現在４０事業所ぐらいに御協力いただいているところですけれども、さらに市内の事業者の方に返礼品の提供を呼び掛けてまいりたいというところが１点。

それと現在、ふるさとチョイス・さとふるという、二つのポータルサイトに事業のほうを委託しておりますけれども、さらに受付の窓口、ポータルサイトのほうの拡大をしたらどのような効果があるのか、というようなところを、現在研究をして前向きに取り組んでおるというところ。

それと、どうしても寄附金額というのが集中をする金額帯がございますので、そこに魅力ある返礼品のほうを集中させる、というふうな商品の企画等にも取り掛かってまいりたい。それと寄附者の居住地がどこが多いかというふうなところも、統計を取ってございますので、そこに効果的なＰＲを仕掛けられないかというところ。あるいは寄附をしていただいた方にリピーターになってもらうための策というのも打っていこうというふうなところで、さらなる改善と言いますか、寄附額の増大に向けた取り組みを、今後早急に進めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

市長、どのように思われるかというとこでありますが、やはり先ほど投資的経費、ハード的な部分、やはりこういうとこの収益を上げて、いかにするかということになると、これは民間では、やっぱりどうやって売り上げを上げるかということなんですね。

上げるためにどうするかで、先進地に行かれて勉強しようかと、もしくは隣の上毛町でもこれだけの実績を上げているんだったら、どういうことなのか、というふうに聞きに行ったりですね、その工夫が必要ではないかというふうに思います。もう今こうやって国から縛りが入っているということは、ある意味、私は後手じゃないかなというふうに感じる部分があります。

これについては、私はこれ、ふるさと納税ということを例に挙げましたけど、豊前市はお金をどうかして確保せんと悪いと。この考えと団結力が必要というように思うわけですよね。というようになりますと、私は何にしても税収や収益を上げる策を一丸として練ること、これが必要ではないかというふうに思うわけであります。

また、ある自治体の例としては、昭和５５年の人口は３万人、昭和６２年から平成８年までの間、ニュータウンの開発に伴い急速に人口が増え、人口増加率が１０年連続全国１位を記録したというわけであります。現在では、約１１万人ということでありますが、理由は住宅開発などにより、子育て世代が転入してきたとのことであります。現在でも死亡率より出生率のほうが多いというふうなかたちであります。

これは参考になる例か分かりませんけど、このように取り組んだ自治体。やはり先手を打つということが重要ではないかというふうに思います。近隣でも、行橋市・苅田町と住宅の開発というところに重視しているようであります。

やはり、このような考え方、住宅の開発、いま三楽住宅もあるわけでありますけども、どれだけ動いているのか、そんな中途半端なことしてもですね、いかに中津のほうから引き寄せるか、どうやってするか、この住宅開発。このような考え方は、市長、どのようにお考えですか。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

人口増、活力を人の数でやはり評価されますので、人口増は取り組んでいかなければならない、我々にとっては永遠のテーマの一つでございます。

今おっしゃった例の地域、そういうところが散見されますのは、やはり大都市の周辺というところが立地的に地理的に非常に有利であるというのがあります。もし中津地域の所

に、福岡都市圏があれば我々のところも住宅地として十分に活用していただけるんじゃないかと思いますが、中々そういう状況にはございません。

ただ、手をこまねいていてはどうしようもないんですが、三楽の県営住宅跡地をいま分譲しております。ＰＲも含めて下手なのかもしれませんが、中々まとまって買っていただけるようなところにならなければ、一気に増えるというのは難しいのかもしれません。

そういう流れ、非常に人口増に対して、後手後手のように印象を持たれていると思います。しかし、何とかしたいと。我々もしたいところもございますが、民業を圧迫してもいけないと、その辺のところもあるように、私は認識しておりますので、民間の力でそういうのを引っ張ってこられないかと。

そういうことで、何箇所か私も心あたりのところに働きかけ、また実際にここに来ていただいた所も何社かあります。福岡都市圏から北九州都市圏から行橋からも来ていただきましたが、やはり民間が投資するには、ちょっとリスクが大きいというのが、彼らの見方でございます。

それでは、いわゆる一般の建売とか分譲ではないやり方はないのかというところで、いま空き地を含めて、再提案などもさせていただこうとしているところでございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

現実的には、市長が言われるとおりかというふうに思いますけど、先ほど収益で、また収益を上げる場所に特化するという部分につきましては、やはりふるさと納税で頑張って数億円入れば、またその数億円を使って分譲などをやっていく。

もちろん民業圧迫をするわけにはいかないんで、民間と連携してそういう住宅の開発、地元業者と連携してやるという方法も、工夫をすればあるかというふうに思います。ここを、目標を持って動くか動かないかが大きいものだと思いますし、その辺の関連性、動かなければ地元のそういう業者も潤うこともないかもしれません。

いろいろ活発にそういうところをですね、回していく取り組みも視野に置いて今後やっていただきたいというふうに思いますので、皆さん、部長も特によろしくお願いしたいというふうに思います。

次に、市政方針についての最後の質問をいたします。内容は学校の校舎の老朽化の問題であります。３番目の教育問題と共通しますが、ハード事業なのでここで質問したいと思います。

学校の環境整備は例え予算がないといっても、避けては通れない重要な問題ではないでしょうか。そこで校舎の老朽化に関する改修工事、特にトイレの問題は議会でも挙がっております。保護者からも多数の声が挙がっております。

家に帰るまでトイレをしなくて我慢をしている。中には学校でできないので、我慢をしていたら途中で漏らしてしまった、このような話しも聞きます。保護者からしてみたらトイレくらい学校でゆっくりさせてもらいたい。学校の施設の環境整備はしっかりしていただきたい、と声が挙がっているわけであります。民間でも、豊前市はよっぽど予算がないのでしょうね、という声が挙がるわけであります。

そこで質問でありますが、校舎の問題箇所は何件あって、対処はどのようになっているのか、教育委員会よりお願いします。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

学校施設の老朽化ということでございますが、御存知のように市内の多くの学校、建設から３０年前後経った所が多くございます。一番古い所は、昭和４３年という所もございます。

その中で、現在トイレ等の改修が完了しておりますのが、八屋小学校・千束中学校ということでございます。先ほど財務課長も答弁されましたように、学校のトイレの改修につきましては、教育委員会としましても最優先課題というふうに考えておりまして、向こう５カ年の中期の事業計画の中では、トイレの改修というものを中心に計画をあげているところでございます。

本年度は、八屋中学校のトイレの改修について実施設計を行い、来年度改修するということで考えてございます。その他、各学校の修繕箇所につきましては、学校毎に希望等を聞いているところでございますけれども、十分に対応できていないというところが現状でございます。

現在のところ、校舎の雨漏り、それから先ほどのトイレ、さらには教室の照明器具等についての御要望をいただいているところでございます。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

ちょっと、今後の把握をどの辺までしているのかと、その辺が私は気になるわけでありますが、これは市内の小中学校の校舎は、今後ですね、１０年、２０年経つと老朽化の改修にどれだけ費用がかかるのか。

この辺でありますが、その費用はどれだけの額を想定しているのか。これは財務課でしょうか、分かるところをお願いします。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

これにつきましても、先ほど財務課長も答弁されましたけれども、現在、公共事業の総合管理計画というものがございます。これにのっとって、今後、各個別の施設の長寿命化計画というものを、平成３２年までに立ててまいります。

その中で具体的な改修の場所、それから予算の概算について、立てていくという計画でございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

私の気になる質問が、１０年、２０年経つとどれだけの費用を想定しているかという、この試算であります。

（教育部長、挙手あり）

もういいです。しているか、してないかの話しというのが気になるわけでありますが、これからの計画ということになりますね。

もう１点気になるのが、今後の１０年、２０年経つと市内の小中学生の生徒は、どのような現状になると予測しているのか、お尋ねします。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

まず本年度、平成３０年の児童・生徒数で申しますと、小学生が１２７２名、中学生が４６０名ということになってございます。これに対しまして、中学校は吉中の分は入ってございません。

それで平成３６年度で、いま出生数等から推計いたしますと、小学生で１１５６名、それから中学校、吉中除きましたところで４８１名という推定をしております。

○議長　磯永優二君

１０年後、２０年後と言いよる。教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

申し訳ございません。１０年後については、ちょっとまだ推計がございません。６年後ということで推計をさせていただいております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

というと、大体人口の推移とそういうのから考えて、減る予想かどうかというのも想定されてないということですか。具体的な数字より、やはりどのような試算をされているの

か。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

ただいま申し上げました数字からいきますと、増えるということはない。ただ私どもが想定しているよりは、緩やかな減というふうに想定をしております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

この出生率を含めて、人口減と高齢化率を含めて緩やかな減ということでありますが、私はかなり加速していくのかなというふうな予想をしているわけであります。

ということは、一番怖いのは、予想している現実の数より下回っていくということでありますが、ちょっと予想が、今の現状から緩やかというところで間違いないんですかね、教育課長、緩やかですか。

○議長　磯永優二君

学校教育課長、答弁。

○学校教育課長　田原行人君

昨年の２月時点での数字で集計をあげさせていただいております。先ほど部長からの答弁を申し上げましたように、同様に、６年間・１２年間で、小学校・中学校それぞれ推計を試算しております。

それを見る限りでは、６年後においては小学校においては１１６人、中学校においては２１人の減。さらに１２年後においては現在と比べて２５人の減ということでなっております。

これが緩やかかどうかというのは、ちょっと御判断をいただくしかないと思うんですが、数的に必ずしも少ないとも決められないですが、いわゆる人口減の現象から考えた限りにおいては、５、６年後、１０年後において、ちょっと失礼な言い方ではありますが、思ったより減らないなというのが、正直な感想でございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

そうなんですね。ということは、人口推移をもとに生徒数とかも推移するかなというふうに思うんですが、その予想に対して、やはり注意していくべきは現在の出生率のチェックも必要かなというふうに思います。

出生率の予測と現在の出生率を比較して、増減が現実どうなのか、その辺、分かる担当

課があったらお尋ねします。

○議長　磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長　藤井郁君

いま一番新しいところの出生率で申しますと、１．５８というところですけれども、豊前市自体の人口動態というところを見てみますと、従前は大体、出生が約２００人程度と、２００人前後というところで推移してきたわけですけれども、２５年度・２６年度は、１９０数名ということで、２００人にごく近かったんですけれども、２７年度で申しますと１７０数名、２８年度は１６２人、２９年度は１５７人ということで、現実の数字としては、ちょっとその原因等は分析ができておりませんけれども、かなり少なくなったなというのは、正直ちょっと驚いているところでございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

教育課、そうじゃないですかね。やっぱりその辺の推移を連携してするべきではないかというふうに思います。

問題は、今後の１０年後、２０年後にかかる修繕費用、改修費用ですね。また生徒数の問題、いかにどのように複式学級になっていくのか。このような問題は、私は放置できないのではないかというふうに思います。

そこで私の疑問点は、予算とタイミングということでありますが、まず予算は老朽化で改修費用が今後も増額見込みになるかというふうに思います。しかも確認すると学校の積立金１億円ということでありますが、積立も増額するべきだというふうに、そうしないとさらに投資的予算を圧迫する可能性があるんではないかと。今後何もできなくなるかなというところが気になる点です。

もう一つは、タイミングでありますけど、もし今なにも動かない場合、例えば学校がいよいよ使えなくなったときに廃校にするのか、建替えを検討するのか。また生徒がいなくなって、成り立たなくなって廃校にするか、どうするのか考えるのか。このようなことを考えることが必要なのではないかというふうに感じるとこであります。

このようなことも含めて、教育長にちょっと考え方を確認したいというふうに思いますが、過去に学校の統廃合の問題が白紙になったというふうに聞いております。やはり子どもたちを思う考え方は、民間でも賛否両論あるかというふうに思います。しかし、その観点とは別に、豊前市の経営として考える時期がきているのではないかというふうに私は思います。

小中学校とありますが、例えばですね、中学校４校で例えて、１０年後、２０年後、４

校の管理運営費が、また老朽化の改修工事がどれだけの額なのか、このようなことを試算して、もし１校にするとどれだけの額になるのか、その差額はどうなのか、また生徒数の問題や部活の問題、学力の問題、子どものためにどうするべきなのか。それと同様に小学校ならどうなのか。そのようなことを考える時期ではないかというふうに私は思います。その辺についての教育長の考え方をお尋ねします。

○議長　磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長　中島孝博君

ハードの整備をもとにして、将来的な学校の適正規模につなげるという提案だったと思うんですけれども、このことは極めてデリケートな問題であると思います。学校と地域コミュニティ、あるいは地域文化とのつながりといった面もありますので、単に経済的な事情や教育効果、あるいは教育効率といった側面だけでは語れるものではない。そういったところを総合的に考えていかなければならないものだと思います。

ただ、最新の文科省の学校適正化に向けた調査によりますと、適正規模より小さくなって検討が必要だと言われている市町村の中で、まだ４２％が具体的に計画できてないと答えております。

その背景は、いま経済的な問題もあり、あるいは学校の果たしてきた役割もありという、そういう中で判断が難しいという状況、事実を表わしているものだと思います。

しかしながら、先ほどから議員も御指摘いただいていますように、今の子どもたちが親世代となって子育てする、２０４０年人口集計ですか、これによりますと、豊前市の人口が２万人を切るというような想定もされているわけですから、先ほど、生まれた数は６年後ぐらいしか、実際数えられませんけれども、こういったものをもとに想定した場合、このまま小中の１４校を維持管理していくことが望ましいのか、あるいはそれが、規模的にも経済的にも持続可能なのかという議論をいつまでも棚上げし続けることは、いかがなものかと私自身も考えております。

前に調べた資料によりますと、豊前市が誕生したとき、私も豊前市と同じ年なんですけれども、調べた資料では、そのときの学校数は小学校で１５、中学校は現在と同じ４校でございます、その時点で。６０年前になりますけど、豊前市の子どもたちですね、小学校の生徒数が５５００人、中学生が２５００人、計８千人おりました。

それが、現在は先ほど申しました小学校１０校、中学校４校となり、合計１７５０名程度になっておるわけですけれども、これ約６０年前の２割の児童・生徒数ということでございます。これが、人口想定が２万人という規模になったときに、じゃあその１０校を４校でいいのかといったこと、そういうことを見通す、そういう考えも同時に私の立場にある者が、考える準備をしなければならないというふうに認識しております。

ただ、これまでも議会で繰り返し説明させていただきましたけれども、先に２６年度末に出された通学区審議会答申というのがございまして、これに基づいて現在は、合岩小中の連携、新しく加えて角田小中の連携の取り組みをいま推進させながら、その成果を考察したいと思っている段階でございます。

ですので、本年度はこれに加えて、小中連携の成果と小規模特認校をこれまで配置してきています。その成果もぜひ考察して、そういった資料に基づいて議員が先ほどおっしゃったようなことを真剣に議論していく、そういう土台と言いますか、素地といいますか、着手していく必要があるというふうには認識しております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

市長、この統廃合について、いろんな問題があるかというふうに思います。メリット・デメリット、このようなことを、やはり検証するべきでないかというふうに思うところであります。

問題は、いま考えておかないと１０年後にその現状が訪れて、そのようなことを考えたときに、その損失が大きいのではないか。もちろん私もそれを、するべき、しないべきというよりも、いま豊前市のためにどうがいいのかということを、本腰入れてもう一度考えるべきでないか、というように思いますが、市長の考えを。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

子どもたちを健全に、元気に育てていくというのは、本当に大きな私たちの使命でございます。いま教育長からも話しが、答弁させていただきましたが、私たちもこの時代に、これから先を見据えてどのように対応していけばいいのか。２６年度の答申のお話しもでました。合岩小中学校、そして角田小中学校。地域の中で連携していく姿を少し研究していこうということで、いま取り組んでいるところでございます。

その経緯を見ながら判断しなければならないところではございますが、やはり他の学校についても、豊前に住んで良かったな、学んで良かったなというところになるためにはどうしたらいいのかということを、併せて研究していかなければと思っております。

そういう中で、大村小学校は、当時は１０人程度だったと思います。１３人とか１６人くらいだったんですが、今は２４、２５人まで増えております。規模を大きくして、効率的に教育するというのが、大多数の皆さんには必要なことかもしれませんが、逆にあのような家庭的な環境を求めて学びに来るという人たちもいるような現状もあります。しかしながら、これから、この１０年を見ましても、ＩＣＴ・ＩＴの世界、瞬く間に進んでおり

ます。この１０年間で我々がもう追いついていけないくらいの社会ができております。

ＩＣＴ・ＡＩ、こういう最先端の時代に、進んでいる時代についていける。またリードしていくような子どもたちを育てるにはどうしたらいいのか。その辺のところも見据えながら、御指摘のところをしっかり受け止めながら、これから小中学校の在り方でいいのかどうかも含めて、我々はいま検討を始めているところでございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

ぜひとも、子どもたちのために本格的に考えていただきたい、というお願いにしておきます。

時間の関係上ですね、２番目の市民団体との連携と予算についてということでありますが、ソフト事業の観点であります。今回、部長制度にもなったわけでありますが、その中で豊前市がいま力を入れている協働のまちづくりについて、ちょっと１点お尋ねしたいというふうに思います。

やはり力を入れているのが地域づくり協議会でありますが、この事業は公民館を拠点として取り組む事業というふうにあるわけであります。そこで、私の提案が公民館の有効活用として、物品販売などができないのかということであります。このような提案をしたいというふうに思います。

内容は、市内の１次産業者や商業者の商品を販売する。山の人は海の物、海の人は山の物が買える。また地元の畑などで作った野菜なども販売できる、市内の商業者や商店街も商品を販売して、そういうようなイベントを打っていく。公民館をそのように活用することで、買い物難民対策にもなり、商業者や１次産業者の経済効果にもつながれば、というふうに思うわけであります。

さらに近くのお店がない地域では、子どもたちが駄菓子、アイスクリームなどを食べて、安心して地域が見守れるというような地域の活性化を図れるのではないかと。この公民館の物品販売、このようなことについて、また地域づくり協議会の活動の視野も広がるのではないかというふうに思いますが、担当部長、お願いします。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

地域づくり協議会の概要につきましては、昨日も答弁を差し上げましたとおりでございます。それで、この豊前市の生涯学習推進基本計画の中におきまして、議員おっしゃいましたように公民館の活性化ということを掲げてございます。

その中で大きなポイントとして、おっしゃいますような地域づくり協議会をまずつくる

ということ。それに従いまして、現在、社会教育法の公民館ということで、それを前提に条例で公民館の位置付けをしておりますけれども、そうしますと、どうしても学習中心の施設ということになろうかと思います。

これをできましたらコミュニティセンターというようなかたちで移行いたしまして、さらにその先には、公民館の指定管理についても視野に入れておきたいというふう考えております。そうする中で、議員おっしゃいますような、今まで以上の公民館の有効活用が可能になるのではないかというふうに考えておりますので、少し時間をいただきながら、そういう方向で検討してまいりたいというふうに考えてございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

その辺の活用をしていただきたいという中の、基準として私の気になる点としては、公民館での物品販売、基本的には、今のものでは厳しいという返事でありましたが、今グリーンコープさんも販売しておられますよね。

疑問としては、公民館の物品販売は駄目で、例えば駐車場の販売は大丈夫なのか、公民館の収益を上げることが駄目なのか。それとも公民館の中でも、公民館に収益が上がらなければいいのか。室内がいいのか悪いのか、この辺の基準というのはどうなんですか。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

駐車場のああいう移動販売がいいのか悪いのかというところでございますけれども、基本的にそういう条例の中で規定してございますのは、施設内での活動ということになりますので、駐車場を利用しての物品販売については、問題はなかろうというふうに考えております。

また、施設内での収益事業につきましては、今いろんなところで、やはり地域の活性化の中で、公民館、そしてまたそれを、コミュニティセンターとして活用しているところがございます。

そういうところでは、議員おっしゃいますような、その地域の方がそこで物品を販売するとか、いわゆる純粋な営利ではなくて、生きがいづくりの中でそういうことをされる、そういうことは、他の地域ではよく目にする例でございますので、そういうところも含めて検討ができればというふうに考えてございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

まず、この公民館を豊前市としても有効活用できるようにですね、そういうふうにかえていくべきではないかというふうに思いますが、グリーンコープさん等、いま入られておりますが、これやっぱり地元の商品を取り扱うとかですね、グリーンコープさんが販売する日に地元の商品も販売するなど、そんなことは可能だというふうに思うんですが、そのような打診とか、協議などはされたのかお尋ねします。

○議長　磯永優二君

教育部長、答弁。

○教育部長　栗焼憲児君

教育委員会としては、今回のグリーンコープの事業の中で、具体的にそういう協議はしてございませんが、今後、事業展開していく中で、何がしか工夫ができればというふうなことも考えてございます。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

ぜひですね、その辺は、やはり理想は地元の商品が売れて、地元の業者さんですね、経済効果につながればというふうに思いますが、やはり部長制度を通じて、そういうテーマが一つあがったときに、こういうふうにしたら地元が良くなるんじゃないか。もちろんグリーンコープさんも地域の活性化、やっぱりそれだけの趣旨を持ってやってくれているというふうに思っております。

やはり、そういうような誤解が、地元も一緒に連携してというところを肉付けされたほうがいいのではないか、というふうに思うところでありますが、総務部長、その辺は部長会議として、こういうことを取り組んでというふうに思いますが。

○議長　磯永優二君

総務部長、答弁。

○総務部長　池田直明君

お答えします。この件につきましては、部長会議の一つテーマにも出ておりました。今まで関係する部としては、市民生活部、また産業建設部においても、それぞれ地元の方、地元の業者もいらっしゃいますので、その辺の調整、十分しっかりして、また教育部も含めまして、今後のそういうより良い方向に向けて研究していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

市長、ぜひその辺もですね、連携をしっかりお願いしたいというふうに思います。

最後になりますが、きょうは豊前市の取り組みと官民の連携ということについて、ハード事業・ソフト事業、予算の観点で質問しましたが、ちょっとソフト事業の観点では、ちょっとあまり質問できなかったわけでありますが、まず市長、このような予算の現状、何をするにも厳しい現状だというふうに思います。

しかし、豊前市の発展に向けたハード事業が後手になると、豊前市の街並みはまったく変わらず､近隣に取り残されるのではないかというふうなところを感じるわけであります。かといって、優先順位を誤ると、今後の大きなダメージにもなりかねません。そのダメージは、将来の子どもたちにも引きずられることを懸念するわけであります。

やはり、しっかり部長制度で部長たちと連携し、各担当課と連携して、明確なビジョンをしっかり出して、そしてこれから市政報告会もあるかと思いますが、現状とどうするのかということを、より具体的に伝えていくことが、市長の役割というふうに思っておりますので、市長の考えをお尋ねします。

○議長　磯永優二君

市長、答弁。

○市長　後藤元秀君

私たちも、市長・部長・教育長、我々の組織の中で、豊前市がどのように方向付けをしていくべきなのか。その中にどんなものを盛り込むべきなのか。今この質問の中で、御指摘いただきましたようなところも含めて、しっかり勉強して取り組んでいきたいと思っております。

○議長　磯永優二君

黒江議員。

○５番　黒江哲文君

それでは、最後にですね、今回、初の部長制度ということでですね、各部長さんたちがお答えになることがあったかというふうに思います。

やはり各課長さんたちにお伝えしたいのがですね、皆さんが今まで答弁する中で、担当係の方が資料を作ったり、いろんな活動をやってきていたかと思います。各部長には、各部署の各担当課の業務をしっかり把握できるように、そのためには、各担当課長たちが現場の状況、そしてその考え方、市民の考えを部長たちにぶつけていくこと、提案することも重要かというふうに思います。

また、部長たちも市長が言った部分にイエスマンではなく、しっかり、これは良い、悪い、こうやろうということと、その部分を市長も連携していい豊前市づくりに努めてもらいたいという思いを込めて、私の質問とさせていただきます。

ありがとうございました。

○議長　磯永優二君

黒江哲文議員の質問が終わりました。

以上で、平成豊明会の一般質問を終了いたします。

ここで、議事運営上、暫時休憩をいたします。

なお再開は、放送にてお知らせいたします。

休憩　１４時２６分

再開　１４時４４分

○議長　磯永優二君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより、本日の一般質問に対する関連質問に入ります。

関連質問のある方は、挙手をしてください。

なお関連質問については、答弁を含め一人１０分以内とします。

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

内丸伸一議員の関連質問をいたします。これ、福祉課長にお尋ねいたしますが、生活困窮者自立支援事業ですね。この事業、先ほど部長のほうからの御答弁の中で、まず相談件数のほうが１５０数件というような内容でありますが、事業自体は、社会福祉協議会にこれは委託されている事業ですね。

（福祉課長、頷く）

ということで、そのまず１５０数件の方々の相談の内容等、そして受けた側が、相談された方が納得いくような､その改善的な相談のアドバイスができたのか｡その辺については、中身については検証されているのか、お尋ねいたします。

○議長　磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長　安永和明君

御質問にお答えいたします。一応ですね、この生活困窮者自立相談支援事業につきましては、相談内容につきまして、毎月、社会福祉協議会と福祉課において調整支援会議を行っておりまして、相談内容について全て福祉のほうに報告があっております。以上です。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

報告じゃなしに、その中身をしっかり検証されたかどうか、私は聞いたんですよ。だから時間がないんだから、いいですか。報告を受けた中身について検証されたか、しないかを簡潔に答弁してください。

○議長　磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長　安永和明君

すみません。一応、報告を受けまして、中身については全て検証をしております。以上です。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

相談された方々が、相談に来て良かったな、というような声を聞かれたかどうか、いかがですか。

○議長　磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長　安永和明君

相談された方まで、福祉課のほうでは、ちょっとお話しを聞いておりませんので、ちょっとそこまで把握しておりません。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

私が言いたいのは、一方的な報告のみを鵜呑みにして、中身を全く検証されていないという杜撰な体制であるということを申し上げたいわけであります。よろしいですか。

次にいきますが、やはりこれは個人情報にかかわる問題です。というようなことで、これは大事なことだから、この個人情報がしっかり守られているのか。その辺はいかかですか。

○議長　磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長　安永和明君

お答えいたします。個人情報に関しては、一応契約書の中に、一応、個人情報の保護ということでですね、厳守の規定を設けておりまして、もしこの規定に反していると確認された場合は、契約の解除及び損害賠償の請求ということで規定がされています。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

その規定をですね、契約でしっかり守っていただければいいが、この辺についてもしっかり、ちょっと私も懸念をいたしているところであります。公務員というものは、やはりその守秘義務というものをしっかり守っていくという、そういう使命というものがあるわ

けですね。

そこでお尋ねいたしますが、これはおそらく町のほうはやってないとのことで、おそらく市が取り組んでいるでしょうけど、補助事業。部長の話しでは、４分の３の補助事業ということでありますが、福岡県下におけるですね、委託されている状況、また直接、行政、市のほうで運営されている、そのような状況等が分かりましたら、御答弁ください。

○議長　磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長　安永和明君

お答えいたします。一応、豊前市では社会福祉協議会に委託をしておりますけれども、委託先のほうは、ちょっと控えさせていただきますけども、行橋市・中間市・小郡市・嘉麻市などにおいては、一応、外部に委託しているような状況になっております。以上です。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

委託をされずに直でやられているところの自治体もあるんでしょうけども、その辺は、なぜ伏せるんですか。

○議長　磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長　安永和明君

申し訳ありません。筑豊におきましては、田川市・直方市などにおいては、直営でやられている所はあります。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

課長に、これ部長にもちょっと申し入れあげておきますが、やはりそのような、直接やられているような自治体の意見等も聞いて、直接やるほうがいいのか、またちょっと不安なんだけど、社会福祉協議会ですね、ちょっとあんまり私は信用していないんですが、そのようなところに委託されるのがいいのか。部長、ちょっとこれは一度検証してみて御検討いただければと思いますので、部長のほうから一言いただいときましょう。

○議長　磯永優二君

市民福祉部長、答弁。

○市民福祉部長　武道和宏君

私もこの４月に市民福祉部長を拝命しまして、今回、一般質問の関連でいろいろと調べさせていただきました。

社会福祉協議会、組織そのものに対する補助金は知っていたんですが、こんなに多くの事業に対する補助金､あるいは委託料が出ているというのは､今回初めて知りましたので、勉強不足であったなというふうに反省をしております。

この件も含めて、中々限られた時間ですけれども、予算の無駄のないように、精査は今後、課長とともにしていきたいと思います。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

ちょっと時間がありますから、あと一点。同じく内丸伸一議員の質問の中で、これ市営河川の浚渫の話し、これ産業建設部長のほうからの答弁の中で、毎年、浚渫工事を行っているとのことであります。時間の都合もありますので、ここ過去３年で結構ですので河川と工事箇所と、その金額。これは建設課長のほうがよろしいでしょう。建設課長、簡潔に時間がないから。

○議長　磯永優二君

建設課長、答弁。

○建設課長　持田末男君

それではお答えします。過去３年間の実績でございますが、平成２７年度、４件、１７６万７４２０円。平成２８年度実績で８件、２８１万５２９０円。平成２９年度実績で６件、２２１万４２１６円の浚渫の工事を行っております。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

課長、議長が笑っていますよ、議長が。時間止めていただきたいところですが、もう一度お願いします。市長のほうからも、いま指導があったでしょうから。

○議長　磯永優二君

建設課長、答弁。

○建設課長　持田末男君

大変失礼しました。２９年度はまだ金額が出ておりませんので、決算ベースで、６箇所で２２１万４２６０円になっております。

○議長　磯永優二君

爪丸議員。

○１２番　爪丸裕和君

市長、もうよろしいでしょう。河川名ですよ。河川名と工事箇所、よろしいですか。申し上げてくださいとのことだったので。

（執行部、挙手あり）

いや、もう時間ないから、委員会でやりますので。

あと、また委員会でもこれは続きをやりたいと思いますが、これ産建の部長、午前中、ちょっと内丸議員からの質問もありましたが、やはり地元からの要望の中で、なぜこの浚渫をやるのか、当然これは大雨のときの氾濫ですね、災害につながるということもあるし、農業用水路ですね、用水路等を塞ぐというようなことも、これは当然そのような問題も、やはり出てくると思うわけですよ。

だからその辺も踏まえて、しっかりとした対応ができるような、予算が不足して、対応できてないんじゃないかというのが、ちょっと私の見方なんですよ。その辺をちょっと十分、地元の意見を聞きながら必要な予算をしっかり取っていただきたいと思います。一言いただいて終わりましょう。

○議長　磯永優二君

産業建設部長、答弁。

○産業建設部長　中川裕次君

議員御指摘のとおりですね、稲作には用水が欠かせないものでございます。ただ河川の中に、井堰等があってですね、そういう水の流れを阻害する要因にもなっているところもございますので、管理の徹底と併せて、そういう農業に必要な予算の確保を図っていきたいというふうに考えております。

○議長　磯永優二君

産業建設委員会の日までに、過去３年間の浚渫箇所と金額、建設課がしようと農林課がしようと、その資料を出してください。いいですか。

（執行部、頷く）

ほかに、ありませんか。

以上で、一般質問に対する、関連質問を終わります。

本日の日程は、これで全て終了いたしました。よって本日は、これにて散会いたします。

皆さん、お疲れでした。

散会　１４時５５分